

令和3年度碧南市発達障害児者地域生活支援モデル事業 成果物

ICF（国際生活機能分類）を活用した  
家庭、教育、福祉のトライアングル連携の  
充実・展開に向けた階層的な地域支援体制の構築

令和4年3月

愛知県碧南市

## 目次

1	事業要旨	・・・ P 1
2	巡回支援事前研修	
	(1) 実施目的	・・・ P 4
	(2) 実施日時	・・・ P 4
	(3) 講師	・・・ P 4
	(4) 参加者	・・・ P 4
	(5) 実施内容	・・・ P 4
	(6) 事前情報シートの構成	・・・ P 4
	(7) 事業効果を検証する方法	・・・ P 7
	(8) 結果	・・・ P 9
	(9) 考察	・・・ P 13
3	園と児童クラブへの巡回支援	
	(1) 実施目的	・・・ P 14
	(2) 実施日時	・・・ P 14
	(3) 実施内容	・・・ P 14
	(4) 対象者	・・・ P 14
	(5) 事業効果を検証する方法	・・・ P 15
	(6) 結果	・・・ P 17
	(7) 考察	・・・ P 40
4	ICFの観点を取り入れた保護者向け研修のモデル実施	
	(1) 実施目的	・・・ P 41
	(2) 実施日時	・・・ P 41
	(3) 講師	・・・ P 41
	(4) 参加者	・・・ P 41
	(5) 実施内容	・・・ P 41
	(6) 情報シートの構成	・・・ P 41
	(7) 事業効果を検証する方法	・・・ P 43
	(8) 結果	・・・ P 47

(9) 考察	・・・ P 5 3
5 ICFシステム紹介チラシの作成	
(1) 実施目的	・・・ P 5 4
(2) チラシ内容	・・・ P 5 4
(3) 効果検証	・・・ P 5 5
6 ICF研修の市外事業所への拡大	
(1) 実施目的	・・・ P 5 6
(2) 実施日時	・・・ P 5 6
(3) 講師	・・・ P 5 6
(4) 参加者	・・・ P 5 6
(5) 実施内容	・・・ P 5 6
(6) 事業効果を検証する方法	・・・ P 5 6
(7) 結果	・・・ P 6 0
(8) 考察	・・・ P 6 2
7 ICFシステムを活用する事業所への費用支弁の継続	
(1) 実施目的	・・・ P 6 3
(2) 実施内容	・・・ P 6 3
(3) 費用支弁までの流れ	・・・ P 6 3
(4) 対象となる事業所の条件	・・・ P 6 3
(5) ICFシステム活用の対象となる児童	・・・ P 6 3
(6) 事業効果を検証する方法	・・・ P 6 3
(7) 結果	・・・ P 6 3
8 モデル事業の考察	・・・ P 6 5
9 課題と今後の展望	・・・ P 6 6
付録	
1 ICF情報把握・共有システム(コアセット版)の概要	・・・ P 6 7
2 企画・推進委員会の実施状況等	・・・ P 7 0
3 成果の公表実績・計画	・・・ P 8 1

# 令和3年度 碧南市発達障害児者支援モデル事業報告

## ICF（国際生活機能分類）を活用した家庭・教育・福祉のトライアングル 連携の充実・展開に向けた階層的な地域支援体制の構築

### 1 事業要旨

#### (1) 経緯

碧南市では、平成30年度からモデル事業において発達障害の子どもに向けて、ICFを活用した支援を実施してきた。平成30年度当初から、ICFシステムの活用でも大きな効果が確認されていたが、まだ地域にICFの考え方が普及していないことで、活用までのハードルが高い、ICFの考え方が耳慣れずにとまどう、などの課題があがっていた。「一貫した支援」には、それを下支えする「地域の共通の視点」が必要である。しかし、これまで当市においては、共通した視点が形成できていなかった。「対応に困る状況の原因は子ども自身にある」というようにICF以前の環境要因の影響を考慮しない考え方をする支援者が多く、ICFシステムを活用する際に、子どもの困難性を捉える視点の違いに戸惑い、支援に対する考え方を切り変えるまでに時間がかかっていた。そこで、今年はICFの考え方の土壌づくりを目標に実施した。

#### (2) 今年度の事業目的

支援者、保護者にICFの考え方やシステム活用のための普及を行い、地域のICFの土壌づくりを行う。

#### (3) 実施内容

##### ア 巡回支援事前研修、保育園・幼稚園・児童クラブへの巡回支援

①目的：保育園、幼稚園や児童クラブにおいて、ICFの観点を盛り込んだ巡回支援を実施することで、発達支援の現場にICFの考え方を幅広く普及し、環境要因の影響を考慮した支援実践の実現につなげる。

②方法：園長、主任級の職員に対し、環境要因の把握を明示した巡回支援事前情報シートの記入方法、記入された情報を使った支援の考え方の事前研修を行う。巡回支援において、事前情報シートをもとに事例検討会を実施し、子どもの理解や環境調整支援を考える。

③効果検証：事前研修参加者と巡回支援参加者に対し、ICFの観点による支援の有

効性、子どもや自身の行動、気持ちの変化等を質問紙により確認する。

#### イ ICF研修の実施（支援者向け）

①目的：ICFシステムによる情報把握と支援構築プロセスに対する支援者の理解を高め、ICFシステムの実践活用を促す。市外の児童の福祉サービス事業所へも対象を広げることで、市内の子どもが必要な際にはICFシステムを活用できるようになることを目指す。

②方法：子どもの発達に関わる支援者を対象に2日間、ICFの考え方やICFシステムの構成や使い方に関わる座学および模擬支援会議を盛り込んだ研修を実施する。

③効果検証：ICF研修参加者に対し、ICFシステムによる情報把握と支援構築プロセスの有効性の理解等を質問紙により確認する。

#### ウ ICFの観点を取り入れた保護者向け研修のモデル実施（保護者向け）

①目的：保護者向けにICFの考え方をわかりやすく伝え、ICFの視点形成に役立てる。

②方法：モデル実施のため、親子の会「カラフル」の会員および、ICFシステムを活用している児童福祉サービス事業所を利用している保護者で希望される方に2時間半研修（講演、グループワーク）を実施する。

③効果検証：研修受講者に対し、ICFの観点による子どもの見方や関り方の理解度、保護者や子ども自身の行動や気持ちの変化等を質問紙により確認する。

#### エ 保護者向けを対象とするICFシステム紹介チラシを作成

目的：児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所が、ICFシステムを活用する際に、保護者の理解を支える説明を行うためのチラシを作成する。

#### オ ICF研修受講後にICFシステムを活用する事業所への費用支弁

①目的：児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所に対し、ICFシステム活用および活用継続への動機づけとする。

②方法：児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所がICFシステムを活用し、情報収集から関係機関との支援会議を実施した場合、1回あたり7,000円の費用支弁をする。

#### (4) 結果

今回、巡回支援事前研修と巡回支援において、「子どもを環境とセットでとらえる視点」

の形成づくりを行い、「環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる」という考えが地域に浸透してくるなど、ICFの考え方を効果的に普及することができた。また、その視点を用いて支援を行うことで、子どもの姿や支援者自身の気持ちに「よい変化」が見られた。

保護者向け研修において、ICFの考え方を伝える機会を持つことで、保護者が今後の子育てに前向きなり、子どもの良さにつながる子育ての仕方を見つけ取り入れていた。

#### (5) 考察

巡回支援事前研修や巡回支援の実施において、ICFの視点を地域に根付かせることができ、それが子どもの発達支援においても有効であることが示唆されたといえる。

「子どもを環境とセットでとらえる視点」「環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる」というような「地域の共通の視点」があることにより、今後、支援者が新たにICFシステムを活用する際にも、子ども自身の課題と環境の課題とにわけて考えることが抵抗なくできてくると思われる。また支援者と保護者が同様なICFの視点を持つことは、「地域の共通の視点」として大変重要なことであり、研修の有効性が示唆された。

すべての子どもに対してICFシステムを活用することは、活用の際して支援者が感じる労力の問題等で現実的には難しい。よって、日常生活におけるちょっとした配慮だけでは困難さの軽減が難しい子どもには、巡回支援の方法を活用して日常場面の自然観察で把握できる子どもと環境の相互関係に基づく支援を行い、それでも対応方法に苦慮する場合は、子どもの困難性とその困難性に影響する環境要因の相互作用をさらに詳細に捉えて、子どもが困難に陥っている全体像を明らかにするICFシステムを利用するという段階的な地域支援システムの構築が必要であると考えられる。

## 2 巡回支援事前研修

### (1) 実施目的

園長、主任級の職員が、ICF の考え、それを活用した事前記録様式の記入方法、およびその情報を活用した支援考案のプロセスを理解する。各機関で巡回支援を受ける職員が事前情報シートを記入する際に、園長、主任級の職員が助言できるようにする。

### (2) 実施日時

5月28日、6月1日、6月7日、6月9日、6月14日、7月12日

13時から16時15分まで

※内容は全て同様。コロナ禍のため、少人数で実施。初回の研修を録画したものを利用した。

### (3) 講師

北海道大学大学院 教育学研究院 安達 淳 教授

### (4) 参加者

ア 保育園、幼稚園：園長、主任級 25名（市内全園20か所）

イ 児童クラブ：主任支援員 8名（市内全児童クラブ7か所）

ウ 所管課職員：指導主事、指導保育士等 4名

### (5) 実施内容

ア 巡回支援事前情報シートの構成について

イ 子ども本人を捉える視点、子どもへの環境の影響を捉える視点について

ウ 事前情報シートを使った支援の考え方について

### (6) 事前情報シートの構成

ア 子どもと環境(場面・関わり)の理解

イ 子どもの育ちの環境(遊び用具、自然環境、家庭環境)

ウ 本人視点(子どもは「いま」をどう感じているか)

エ 成育歴・既往歴

オ 家族について(ジェノグラム、保護者の本人理解と支援状況)

図3-1にその事前情報シートを示す。

令和3年度 巡回支援 事前情報				提出日		年 月 日 ( )		
訪問日時	R 年 月 日 ( )		園名	先生の名前	(ふりがな)			
	: から							
クラス名		歳児	担当	クラス担任・加配担当	クラスの人数(内加配対象児の人数)			
					人( ) 人( )			
<b>子どもの情報</b>								
ふりがな 名前				性別	生年月日		加配	
<b>(相談内容) 支援者が困っている事、苦勞している事</b>								
よさ・できること				気になること・苦手なこと				
得意なことや1人でできること		こんな場面や関わりならでき		こんな場面や関わりだとできない		苦手さや1人ではまだできないこと		
記入の 視点	～はできている		こんな場所や時ならできる		こんな場所や時には、できない		～はまだ難しい	
	～はできている得意だ		こんな人や物とならできる		こんな人や物だとしない、できない		～は苦手だ	
	〇〇はよくなった		このように関わればできる		このように関わるとしない、できない		〇〇なことが気になる	
			その他、子どもの育ちにプラスとなる子となど					
感覚・ 運動	ここに書くことは・・・見る・聞く・触るなど五感に関する事(気づきにくい、強すぎる、過敏、鈍感など)や運動(身体の使い方)							
	得意なことや一人できること		こんな場面や関わりならでき		こんな場面や関わりだとできない		苦手さや一人ではまだできないこと	
遊び・ 表現	ここに書くことは・・・好きな遊びや苦手な遊び、運動遊びや制作遊び、考える遊びや学習につながる遊びなど							
	得意なことや一人できること		こんな場面や関わりならでき		こんな場面や関わりだとできない		苦手さや一人ではまだできないこと	
言葉・ 意思決定	ここに書くことは・・・「ことば」の理解や伝達の様子、問題解決や意思決定することなど							
	得意なことや一人できること		こんな場面や関わりならでき		こんな場面や関わりだとできない		苦手さや一人ではまだできないこと	
健康面・ 生活面	ここに書くことは・・・睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、生活時間など、生活全般に関する事							
	得意なことや一人できること		こんな場面や関わりならでき		こんな場面や関わりだとできない		苦手さや一人ではまだできないこと	
場面・ 人間関係 の理解	ここに書くことは・・・ルールの理解や場面にあった行動、大人や友達とのかかわりなど							
	得意なことや一人できること		こんな場面や関わりならでき		こんな場面や関わりだとできない		苦手さや一人ではまだできないこと	

図2-1① 事前情報シート (表)



子どもの情報 その2			
環境	ここに書くことは：本児にとって(使いやすい/使いにくい)遊び用具、(快適/不快)な自然環境、(プラス/マイナス)な家庭環境		
	遊び用具 (本児にとって使いやすいもの)	自然環境 (本児にとって快適なもの)	家庭環境 (本児の育ちにプラスになること)
	その他 (本児の育ちにプラスになること)		
	(本児にとって使いにくいもの)	(本児にとって不快なもの)	(本児の育ちにマイナスになること)
本人視点	本児の視点に立って、本児がどんなふう困っていて、どんなふう感じているかを記入		
生育歴・既往歴	ここに書くことは・・・これまでの発達状況や乳幼児健診での結果や指摘などを、把握している範囲で記入		
保護者情報			
家族構成図	<ジェノグラム> ※年齢が分かる場合は、ご記入ください		<特記事項>
保護者の本人理解と支援状況	受け止め姿の方	保護者 (母)	その他の家族
		(父)	
	本児への方	(母)	
		(父)	

図 2 - 1 ② 事前情報シート (裏)

(7) 事業効果を検証する方法

ア 巡回支援事前研修にかかわるアンケート

巡回支援事前研修の内容理解や、研修を受けたことでの気づきについて評価することを目的として、研修参加者を対象に質問票を実施した。

図 2 - 2 に巡回支援事前研修にかかわるアンケートを示す。

令和3年度 碧南市 ネットワーク研修会 アンケート	
ネットワーク研修の受講お疲れさまでした。今回受けた研修会について、以下の質問にご回答いただきますよう、お願いいたします。(該当する選択肢の□に☑をして下さい)	
質問 01) 支援者が対応に困る子は、その子本人も困っていることに気が付いた	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問 02) 支援者が対応に困る子は、その子自身の苦手さもあるが、支援や周りの環境による ところも大きいことがわかった	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問 03) 支援者が対応に困っている状況には、多くの場合、その状況をもたらしている要因が 複数あることがわかった。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問 04) 子どもの出来ない部分ばかりみていたことに気づいた。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問 05) 子どもの出来ている部分を見つけることが、支援の手立てにつながることをわかった。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問 06) 子どもの出来ていることや出来ないことだけでなく、環境や場面とセットで子どもを 見ていくことが支援に有用であることがわかった	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問 07) 子どもにがんばらせるよりも、環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる ことがわかった。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない

図 2 - 2 ① 巡回支援事前研修アンケート(表)

質問 08) 保護者の背景を知ること、保護者の気持ちに寄り添うことができると思った。

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 09) 保護者の背景や子どもの成育歴によっては、保護者が子どもの現状をすぐには受け入れられないことがわかった。

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 10) 発達支援の必要な子どもは「子ども自身が複数の要因が作り上げる悪循環に陥っている」(支援とはその悪循環から子どもを助け出すこと)という考え方は納得できるものだった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 11) 巡回相談事前シートの捉え方で子どもの情報を把握することで、子どもの発達支援を効果的に進めていける

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 12) (参加していない) 園の職員たちに、今回の研修会の内容を理解して活用してもらいたい

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 13) 今回の研修会の全体としての評価をご回答下さい。

とてもよかった       よかった       よくなかった       まったくよくなかった

**【研修会の感想をご自由にお書き下さい】**

図 2 - 2 ② 巡回支援事前研修アンケート(裏)

イ 企画・推進委員会での事業評価

企画・推進委員会での事業を報告し、評価を受けた。

(8) 結果

ア 巡回支援事前研修アンケート まとめ

表 1 - 1 巡回支援事前研修アンケート まとめ

研修会に参加して		1	2	3	4	中央値	回答数	
選択肢 >>	1 : 思う	度数						
	2 : 少し思う	3 : あまりそう思わない	4 : 思わない					
(1)	支援者が対応に困る子は、その子本人も困っていることに気が付いた	36	0	1	0	1	37	
(2)	支援者が対応に困る子は、その子自身の苦手さもあるが、支援や周りの環境による ところも大きいことがわかった。	35	2	0	0	1	37	
(3)	支援者が対応に困っている状況には多くの場合、その状況をもたらしている要因が 複数あることがわかった。	35	2	0	0	1	37	
(4)	子どものできない部分ばかり見ていたことに気がついた	11	21	3	0	2	35	※未回答 2
(5)	子どものできている部分を見つけることが、支援の手立てにつながるということがわかつた。	35	1	0	0	1	36	※未回答 1
(6)	子どものできていることやできていないことだけでなく、環境や場面とセットで子 どもを見ていくことが支援に有用であることがわかった。	37	0	0	0	1	37	
(7)	子どもにがんばらせるよりも環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる ことがわかった。	33	4	0	0	1	37	
(8)	保護者の背景を知ることで保護者の気持ちに寄り添うことができると思った。	34	2	0	0	1	36	※未回答 1
(9)	保護者の背景や子どもの成育歴によっては、保護者が子どもの現状をすぐには受け 入れられないことが分かった。	33	3	0	0	1	36	※未回答 1
(10)	発達支援の必要な子どもは「子ども自身が複数の要因を作り上げる悪循環に陥って いる（支援とはその悪循環から子どもを助け出すこと）」という考え方は納得でき るものだった。	34	2	0	0	1	36	※未回答 1
(11)	巡回相談事前シートの捉え方で子どもの情報を把握することで、子どもの発達支援 を効果的に進めていける。	33	1	0	0	1	34	※未回答 3
(12)	(参加していない) 園の職員たちに今回の研修会の内容を理解して活用してもらい たい。	33	1	0	0	1	34	※未回答 3
(13)	今回の研修会の全体としての評価をご回答ください。	29	6	0	0	1	35	※未回答 2

事前情報シートについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この様式にすると、幼児の理解が深まり困っていることが具体的に理解できるようになると感じた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良さ（できていないこと）と気になることを文章で区別することで、こんなにわかりやすくなると驚いた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よさと・苦手さを表におとすところで、関連性・対比が浮かび上がり、支援の手立てが見えてくることに感動した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実のままを記入し分類していく事で、子どもの全体がより見やすく職員間で共有しやすい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由記述の記録だと、どうしてもできていないこと、困っている事ばかりになってしまうが、できていることや良さを記入することで、他の困りごとへの支援の手立てにつながる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このシート作成には時間がかかると思うが、現在個別支援計画を保護者に説明している最中なので重複して参考になった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このシートはいいと思うが、個別支援計画、月案、週案も記入する中で、よく似た項目もあるので、加配の先生の負担を考えると積極的にすすめられない。</li> </ul>
環境との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもをとりまく環境・状態をできるだけ詳しく知ることが支援の第一歩なのだと思います。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる子に対して、ただ「大変」「困る」というだけでなく、どの場面が苦手で、どの場面・状況なら困らないかを把握し、記録に残し次年度へつなげていくことで、本人の困り感を減らしていけたらいいと思った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の方法や環境を整えていく事でその子の良さをのばしていけたらと思う。</li> </ul>
本人視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本人視点」の項目を書く際には、本人の気持ちや体験を想像することになり、支援する側が忘れてしまいがちな「子どもの立場にたつ」ということを改めて意識することができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見方を変え、子どもの立場にたつことで、支援の手立てのヒントがよく見えてきた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の研修内容は、巡回支援というだけでなく、加配児や気になる子の捉え方としてもとても勉強になる。いろんな先生が聞く機会があるといい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの分析把握をするのに、園全体でもわかりやすい資料であり、作成者の捉え方がわかってくる。</li> </ul>

図2-2③ 巡回支援事前研修アンケート(自由記述)

・受講者自身の気づき、研修内容の理解等、全てにおいて肯定的な回答であった。

特に研修により、「子どものできていることやできていないことだけでなく、場面とセットで子どもを見ることが支援に有効であること」「環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる」、など ICF の考え方を理解することができた。

・「現場での活用において、支援の手立てとなる」「他の職員にも理解して活用してもらいたい」と、研修内容の保育現場への有用性を伺える結果であった。

#### イ 企画・推進委員会での評価

企画・推進委員会での事業評価を、図 2-3 に示す。

図 2-3 企画・推進委員会での事業評価

<p>事前情報シート</p>	<p>・研修を受けた園の主任に感想を聞いた。以前は「この子わからない」と言っていたが、事前研修を受け、事前資料を書いたところ「この子が見えてきた」と主任から担任に具体的なアドバイスをしていた。資料作成は主任と担任だけではなく、複数人で作ることで、色々な先生の視点があり、気づくことが多かったとも報告があった。</p> <p>・家庭、生活、身体、行動等全て網羅して、表になったことで、どこに問題があるかわかりやすくなった。様々な立場の先生が自由に書き込めるのはいいと思った。</p> <p>・とてもよくできている事前情報シートである。</p>
<p>情報シートの活用方法</p>	<p>・情報シートの情報から、悪循環がどこにあるのか見つけるのは専門の先生の力が必要かと思う。保育士だけでは難しい。この資料を使って実績として子どもたちに支援できたらと期待を持っている。</p> <p>・全ての事例に当てはまるわけではないが、よくありがちなパターン、悪循環のタイプがあるので、地域で蓄積をしていくと、現場の先生たちが気づいていけるようになるのではないかと期待できる。</p>

<p>保護者への研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICF の考え方はいいことなので、皆さんに知ってもらうことはいいこと。提案として、園巡回で使っている様式を使って保護者向け研修はできないか。普段の子育ての中で環境を見て考えるようなお子さんの視点に立って学べる研修をして、それが ICF の考え方だよと伝えていくと、保護者自身も ICF の土俵に上げられる。保護者も一緒に考えると支援者にとってもよい。</li> </ul>
<p>地域の普及の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園、学校、保護者など、色々な人たちが同じ視点で子どもを見て情報を取り入れていくことが情報共有で大切なことであり、それぞれが違う見方をしていたら、連携は図れない。共通の視点として、ICF を上手く使っていくとよい。</li> <li>・ どこも同じレベルを求めるのではなく、園、学校は最低限の見方をできるようなベースを持つ。発達支援を行う所はそこに上乘せしていく。</li> </ul>
<p>コアセットとの関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員が ICF システム活用するのは難しいため、段階的に絞り込んでいくような地域支援システムを考えていく。</li> </ul> <p>そういった点で今回の事業は、ICF システムともリンクしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大事なことは地域の中で環境とセットで子どもの困りを見る視点がどれくらい広がるか。その視点で見れば普段のサポートの中でいけるお子さんもいる。それが難しかったら巡回支援のシートを使って丁寧に情報をとる。そこでどこが課題かを考える。想定外の要因も含めて考える場合は ICF を使用する。段階的な地域支援システムにしていく。</li> </ul>
<p>将来への展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園、学校で通常クラスにいる発達障害の子をどうカバーしていこうかという視点がないと、生きづらさを抱える子たちをカバーしきれない。そのため、先生たちのスキルを高めることは必要。費用支弁のない園、学校の先生はどこまでその労力を背負っていけるのかが課題となる。</li> <li>・ 労力よりもやってよかったが得られることで普及する。</li> <li>・ 行く先が変わっても最低限同じ視点で子どもを見ることが大切。</li> <li>・ 行政として ICF を定着させ、もれなく子どもたちに環境因子を含めた、合理的配慮を含めた支援が行き届くように広く普及して欲しい。</li> </ul>

#### (9) 考察

事前研修により、「子どものできていること、できていないことだけでなく、子どもを環境とセットで見ること」の重要性や、「環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる」など、ICFの考え方を理解することにつながった。また、これらを、それぞれの機関のトップである園長、主任級の職員が理解することで、他の職員へのアドバイスができるようになったなど、職場で問題解決できる体制への第一歩になった。



### 3 園と児童クラブへの巡回支援

#### (1) 実施目的

ア ICFの観点を盛り込んだ巡回支援をすることで、ICFの考え方を幅広く普及し現場の支援に活かす。

イ 巡回支援において、事前情報シートをもとに子どもの理解や環境調整支援を園長を交え園として考える。

#### (2) 実施対象

ア 園：市内全20園中、希望園18園（公立幼稚園5園、公立保育園5園、社協園5園、私立園3園）希望なしは私立園2園

巡回参加者：子どもの支援に困っている保育士（園から1名）、園長、主任（副園長）級、その他クラス担任など

イ 児童クラブ：市内全7カ所

巡回支援参加者：各クラブ全支援員

#### (3) 実施者

福祉課巡回支援専門員、保育士、保健師

#### (4) 実施日時

ア 園日程 時間：10時から14時まで

NO	月日	園名	NO	月日	園名	NO	月日	園名
1	6/16	中央幼稚園	10	7/28	築山保育園	19	10/25	碧のうさぎ保育園
2	6/17	新川幼稚園	11	7/29	羽久手保育園	20	10/28	棚尾幼稚園
3	6/22	西端幼稚園	12	8/3	棚尾保育園	21	11/4	大浜保②
4	7/1	鷺塚保育園	13	8/4	日進保育園	22	11/8	荒子保②
5	7/8	荒子保育園	14	8/5	天道保育園	23	2/7	荒子保③
6	7/13	西端保育園	15	10/7	新川保②	24	2/14	棚尾幼②
7	7/19	大浜幼稚園	16	10/8	かしの木保育園			
8	7/20	新川保育園	17	10/11	鷺塚保②			
9	7/21	大浜保育得	18	10/15	二葉保育園			

イ 児童クラブ日程 時間：12時30分から14時30分

NO	月日	クラブ名	NO	月日	クラブ名	NO	月日	クラブ名
1	6/30	棚尾	4	11/17	日進	7	12/2	中央
2	7/7	新川	5	11/19	西端			
3	10/6	大浜	6	11/30	鷺塚			

(5) 巡回支援の流れ

ア 園

(ア) 巡回支援10日前までに事前情報シートを提出

(イ) 巡回支援当日の流れ

a 園巡回

時間	
10時～10時35分	保育場面の観察
10時35分～11時15分	事前記録様式をもとに、担当保育士から詳細確認
11時15分～11時30分	福祉課職員内のうち合わせ
12時30分～14時	事例検討会（園長、主任、担当保育士、福祉課巡回支援員等）

b 児童クラブ巡回

時間	
12時30分～13時00分	事前記録様式をもとに、児クラ支援員から詳細確認
13時00分～14時30分	事例検討会（児童クラブ支援員全員、福祉課巡回支援員等）

(ウ) 事例検討会の詳細

① うまくいく（うまくいかない）要因等を検討

事前情報シートから事前に巡回支援専門員が5項目ほどピックアップしておく。その項目について、うまくいく（うまくいかない）要因を各自で考え、全体で共有する。

図3-1に、うまくいく（うまくいかない）要因の検討例を示す。

良さ・できる場面	苦しさ・できない場面
①間違えても否定せずに、楽しむことを最優先させると、集団遊びを繰り返す中でルールを理解し参加することができる。	①クラスで一斉の説明で初めて行うことは、なかなか理解できず、戸惑ってしまう。
→間違えても否定しない(環境)・安心して遊べる(本人の状況・環境)	→全体での話(環)・全体での話は理解できない(本)・視覚的な手がかりがない(環)
→理解ができてきた(本人)	→見通しが持てない(本)・見通しを持たせていない(環)
→みんなと一緒に楽しい(本・環)・繰り返す(環)・友達が好き(本)	→なにがはじまるか不安(本)
→わかりやすい言葉で伝える(環)	→経験がない(本)・経験させていない(環)・見本がない(環)

図 3 - 1 うまくいく (うまくいかない) 要因の検討例

② うまくいく (うまくいかない) 要因の解析

①で出た要因について、本人の問題と環境の問題にわけると。環境により、その後の結果が大きくちがうことを共有する。

図 3 - 2 にうまくいく (うまくいかない) 要因の解析例を示す。

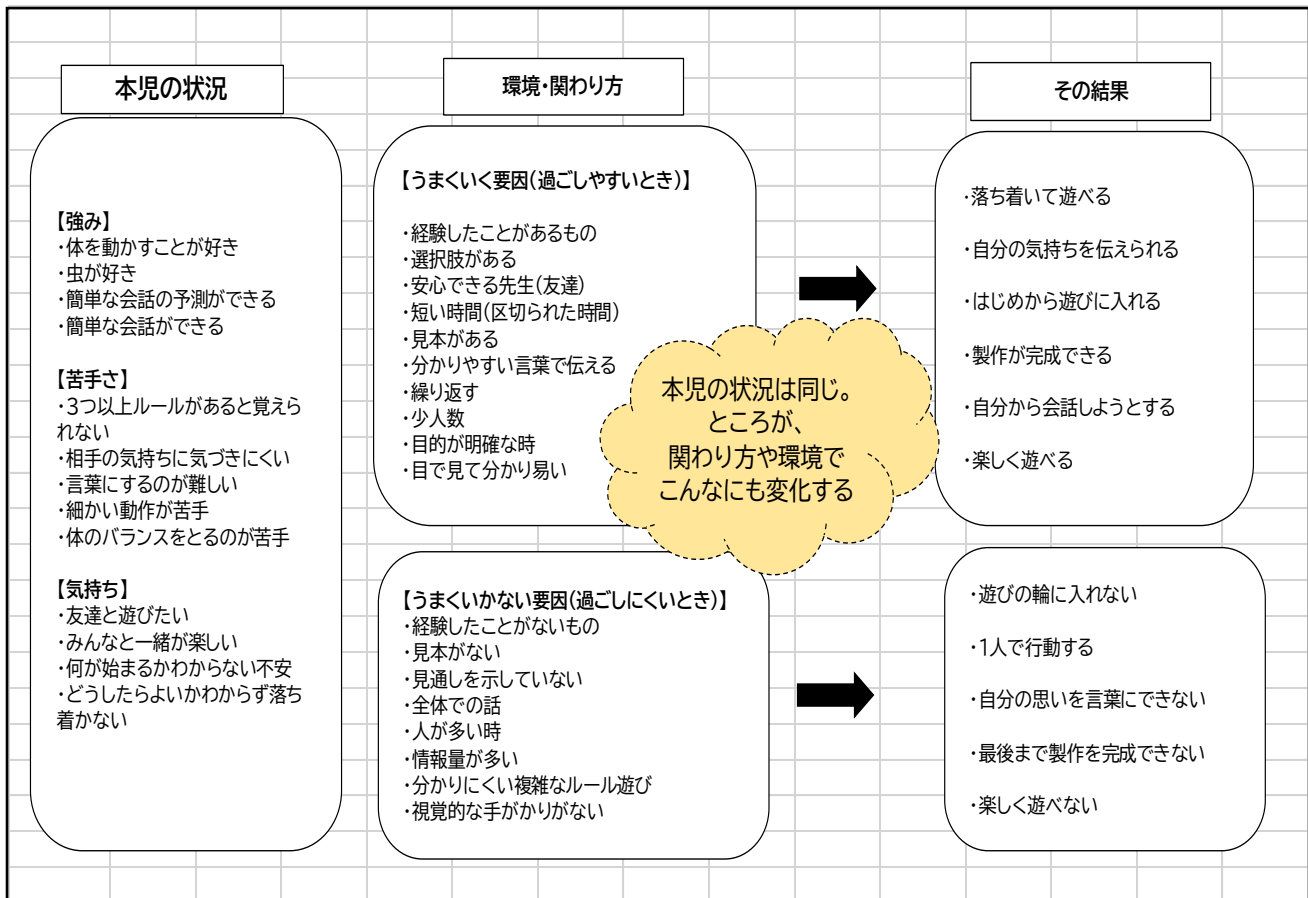


図 3 - 2 うまくいく (うまくいかない) 要因の解析例

③ 本人視点を再確認

上記を整理し、改めて本人の気持ちを考える。

④ 当初の相談内容（事前情報シート記入内容）に対しアドバイスをする

①から③を実施することで、相談内容の多くが解決できることが多い。

(6) 事業効果を検証する方法

ア 巡回支援直後のアンケート

巡回支援の検討会での内容理解や、巡回支援を受けたことでの気づきについて評価することを目的として、巡回支援参加者を対象に巡回支援直後の質問票を実施した。

図 3 - 3 に園の巡回支援直後のアンケートを示す。

図 3 - 4 に児童クラブの巡回支援直後のアンケートを示す。

令和3年度 園巡回支援（事例検討会） アンケート

巡回日：令和 年 月 日

アンケート記入日：令和 年 月 日

役職：どちらかに○をつけてください。A（園長・主任・副園長）、B（担任・加配担当）

このたびは巡回支援を受けていただき、ありがとうございました。

今回の巡回支援について、以下の質問にご回答いただきますよう、お願いいたします。（該当する選択肢の□に☑をして下さい）

質問 01) 支援者が対応に困る子は、その子本人も困っていることに気が付いた

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 02) 支援者が対応に困る子は、その子自身の苦手さもあるが、支援や周りの環境による  
ところも大きいことがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 03) 支援者が対応に困っている状況には、多くの場合、その状況をもたらしている要因が

複数あることがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 04) 子どもの出来ない部分ばかりをみていたことに気づいた

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 05) 子どもの出来ている部分を見つけることが、支援の手立てにつながることを  
わかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 06) 子どもの出来ていることや出来ないことだけでなく、環境や場面とセットで子ども  
を

見ていくことが支援に有用であることがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

図 3 - 3 巡回支援直後のアンケート(表)

質問 07) 子どもにがんばらせるよりも、環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる  
ことがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 08) 巡回相談事前シートの捉え方で子どもの情報を把握することで、子どもの発達支援を効  
果的に進めていける

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 09) 巡回相談事前シートを用いた検討会に参加して、子どもに関わる気持ちがポジティブに  
なった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

(思う、少し思うと回答された方は、どのように変化したかご記入ください)

質問 10) (参加していない) 園の職員たちと、今回の内容を理解して共有したい

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 11) 今回の巡回相談事前シートを他の子どもにも活用してみたい

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 12) (園長、主任、副園長の方のみご回答ください)

今回の巡回相談事前シートを使った検討会を、園内研修などで実施してみたい

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 13) 今回の巡回支援の全体としての評価をご回答下さい

とてもよかった       よかった       よくなかった       まったくよくなかった

【巡回支援の感想をご自由にお書き下さい】

たくさんのご記入、ありがとうございました。メール便でご返却をお願い致します。

図 3 - 3 園 巡回支援直後のアンケート(裏)

令和3年度 児童クラブ巡回支援（事例検討会） アンケート

巡回日：令和 年 月 日

アンケート記入日：令和 年 月 日

このたびは巡回支援を受けていただき、ありがとうございました。

今年度から、巡回支援の方法を変更して実施させていただいております。皆様のご意見ご感想を把握し、今後の巡回支援に役立てていきたいと考えています。

そこで、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

（該当する選択肢の□に☑をして下さい）

質問 01) 支援者が対応に困る子は、その子本人も困っていることに気が付いた

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 02) 支援者が対応に困る子は、その子自身の苦手さもあるが、支援や周りの環境による  
ところも大きいことがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 03) 支援者が対応に困っている状況には、多くの場合、その状況をもたらしている要因が

複数あることがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 04) 子どもの出来ない部分ばかりをみていたことに気づいた

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 05) 子どもの出来ている部分を見つけることが、支援の手立てにつながることをわかった

図 3 - 4 児童クラブ 巡回支援直後のアンケート(表)

質問 06) 子どもの出来ていることや出来ないことだけでなく、環境や場面とセットで子どもを見ていくことが支援に有用であることがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 07) 子どもにがんばらせるよりも、環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる  
ことがわかった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 08) 巡回相談事前シートの捉え方で子どもの情報を把握することで、子どもの発達支援を効果的に進めていける

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 09) 巡回相談事前シートを用いた検討会に参加して、子どもに関わる気持ちがポジティブになった

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

(思う、少し思うと回答された方は、どのように変化したかご記入ください)

質問 10) 今回の巡回相談事前シートを他の子どもにも活用してみたい

思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 11) 今回の巡回支援の全体としての評価をご回答下さい

とてもよかった       よかった       よくなかった       まったくよくなかった

【巡回支援の感想をご自由にお書き下さい】

図 3 - 4 児童クラブ 巡回支援直後のアンケート(裏)



イ 巡回支援事例検討会でのうまくいく、うまくいかない要因の解析

うまくいく、いかない要因を園、児童クラブ別に単純集計して、上位項目別に集計し、企画・推進委員会での評価を得た。

ウ 巡回支援評価アンケート

巡回支援後、約4か月後に、巡回支援のその後の支援者や子どもの変化、巡回支援の評価をすること目的として、巡回支援の事前記録記入者を対象に質問票を実施した。

図3-5に巡回支援評価アンケートを示す。

令和3年度 園巡回支援（事例検討会）その後の様子について

巡回支援を受けていただいた担任・加配担当の先生方へ  
今年度実施した巡回支援の評価のため、その後様子についてお伺いさせていただきたく、  
お手数ですが、以下の質問にご回答お願い致します。（該当する選択肢の□に☑をして下さい）

巡回日：令和 年 月

質問 01) 巡回支援後、相談内容について対象のお子さんへの接し方や関わり方に見通しが立ちましたか？

- 見通しが立った  見通しは立たなかった（巡回支援前と変わらない）

質問 02) 巡回支援後、相談内容は改善されましたか？

- 改善された  少し改善された  あまり改善されなかった  改善されなかった

質問 03-①) 巡回支援後、相談内容について対象のお子さんには「よい変化」が見られましたか？

- 見られた  見られなかった → 右の1か2を丸囲み（1.変化なし 2.悪くなった）

↓

質問 03-②) 「よい変化」にあてはまるものすべてに☑をしてください。

また☑をした項目については、その変化の程度を5点満点の評価で[ ]に記入して下さい。

例えば、☑の項目の変化がかなり大きく、5点満点中の4点であれば[ ]に4を記入して下さい。

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 表情が明るくなった[ ]        | <input type="checkbox"/> 笑顔が増えた[ ]        |
| <input type="checkbox"/> 穏やかになった[ ]          | <input type="checkbox"/> 興味が広がった[ ]       |
| <input type="checkbox"/> 保育士・教諭との関係がよくなった[ ] | <input type="checkbox"/> 他児と仲良く遊ぶ姿が増えた[ ] |
| <input type="checkbox"/> できることが増えた[ ]        | <input type="checkbox"/> 気持ちが崩れにくくなった[ ]  |
| <input type="checkbox"/> その他（                | ）[ ]                                      |

質問 04-①) 巡回支援後、ご自身の日頃の保育・教育に取り入れるようにした事がありましたか。

- ある  ない→質問 05) へ

↓

質問 04-②) 日頃の保育・教育に取り入れるようになった事すべてに☑をして下さい。

- 子どもの気持ちを考え、子どもの視点に立って考えること
- 環境や場面とセットで子どもを見ること
- 子どものできている部分や子どもができていない場面を積極的に見つけること
- できている場面をヒントに環境を整えたり、支援方法を工夫すること
- 子どもの特性や特徴に合わせた関わりをすること
- 他の先生の意見を聞くことや、他の先生と話し合うこと
- 子どもの日々の生活エピソードをつなげて、その全体像から子どもを理解すること。

質問 05) 子どもに関わる気持ちの変化について。

- 巡回支援の後ポジティブに変化し、それが持続している
- 巡回支援の後ポジティブに変化したが、少しもとに戻った
- 巡回支援の後ポジティブに変化したが、元に戻った
- 巡回支援の後、特に気持ちの変化はない
- 巡回支援を受ける前から、ポジティブである

質問 06) 事前提出書類の子どもの捉え方は、他の子どもの理解や支援にも有効だと思いますか？

エ 企画・推進委員会での評価

企画・推進委員会での事業を報告し、評価を受けた。

(6) 結果

ア 巡回支援直後のアンケート

(ア) 園の巡回支援直後のアンケート結果を表3-1に示す。

1 アンケート回答者：57名							
2 巡回支援実施園：18園（公立保育園：5園、公立幼稚園：5園、社協保育園：5園、私立保育園：3園）							
<b>巡回支援(事例検討会)に参加して</b>							
選択肢 >>		1：思う		2：少し思う		中央値	回答数
		3：あまりそう思わない		4：思わない			
		1	2	3	4	度数	
(1)	支援者が対応に困る子は、その子本人も困っていることに気が付いた	52	5	0	0	1	57
(2)	支援者が対応に困る子は、その子自身の苦手さもあるが、支援や周りの環境による ところも大きいことがわかった。	56	1	0	0	1	57
(3)	支援者が対応に困っている状況には多くの場合、その状況をもたらしている要因が 複数あることがわかった。	54	3	0	0	1	57
(4)	子どものできない部分ばかり見ていたことに気がついた	23	30	4	0	2	57
(5)	子どものできている部分を見つけることが、支援の手立てにつながることをわかつた。	52	4	0	0	1	56
(6)	子どものできていることやできていないことだけでなく、環境や場面とセッ トで子どもを見ていくことが支援に有用であることがわかった。	57	0	0	0	1	57
(7)	子どもにがんばらせるよりも環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる ことがわかった。	50	7	0	0	1	57
(8)	巡回相談事前シートの捉え方で子どもの情報を把握することで、子どもの発達支援 を効果的に進めていける。	45	11	0	0	1	56
(9)	巡回相談事前シートを用いた検討会に参加して、子どもに関わる気持ちがポジティ ブになった。	38	15	4	0	1	57
(10)	(参加していない) 園の職員たちと、今回の内容を理解して共有したい。	51	5	0	0	1	56
(11)	今回の巡回相談事前シートを他の子どもにも活用してみたい。	31	25	0	0	1	56
(12)	【園長、主任のみ】今回の巡回相談事前シートを使った検討会を、園内研修などで 実施してみたい。	17	13	0	0	1	30

表3-1 園の巡回支援直後のアンケート結果

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(主な自由記述) 児に対する理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前シートの記入が難しかったが、本児の良さや苦手さ、またその要因についてじっくり考えることができ、子どもを見つめなおす良い機会になった。</li> <li>・本人の問題によるものと環境によるものに分けることで対応の仕方が分かりやすくなったと思う。</li> <li>・巡回相談事前シートを作成することで、担当児のことを改めて丁寧に考え、より理解できた。また、作成しながら進級時からの担当児なりの成長を実感できた。</li> <li>・項目に分けて記入することで多面的な幼児理解につながった。</li> <li>・子どもたちがどこで躓き、困っているのかを把握できたので、巡回支援を受けて良かった。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">環境調整等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの周りの環境が成長に大きく影響すると感じたので、子どもの姿に合わせてよりよい環境を用意していきたいと思った。</li> <li>・子どものことだけではなく、保育士の対応、援助の仕方も具体的に話し合えたので大変勉強になった。</li> <li>・できないところが目につきがちだが、環境を変えたり、保育士が子どもの見方を変えたりすることで、子どもも生活しやすくなったり、保育士も保育の中で気持ちにゆとりがもてるのではと思った。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">検討会の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの項目の視点から子どもの姿を捉え、うまくいく(うまくいかない)要因が環境なのか本人の苦手さなのか、または本人の気持ちなのかなど1つ1つ丁寧にあげ、考えられたことで自分の中でも整理ができ、とても分かりやすかった。</li> <li>・1つ1つ考えていく上で対象児の得意なことや有効な援助方法や良い環境も浮かび上がってきて、興味深く、話し合いの時間があっというまで充実した時間を過ごすことができた。</li> <li>・子どもの行動を細かく見ていくことで、その子への支援の手立てが分かり、とても参考、勉強になった。</li> <li>・話し合いの中でうまくいく条件、うまくいかない条件が分かり、本児と関わる時に意識して活かしていきたいと思った。</li> </ul>

<p>子どもを見る視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで子どものマイナス面ばかりに気がっていたが、ポジティブに子どもの姿を捉えられるようになり、支援する方も前向きに、また、子どもの笑顔が増え、進歩（成長）を感じられるようになった。</li> <li>・対象児の気になるところばかりではなく、良い姿、可愛いなと思える姿も改めて気づくことができた。子どもの気持ちを考えるきっかけになりました。</li> </ul>
<p>保育士の安心</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回支援を受けるまでいろんな関わりをして試行錯誤したが、何が有効なのか、これで大丈夫なのか、と不安な気持ちが大きく悩んでいた。巡回支援で今の援助で大丈夫ですよと言われ、その一言で心が救われました。</li> <li>・対象児との関わりに悩むこともあったが、巡回支援を通して、現在、保育士が関わることによってできていることもあることがわかり、対象児に対して明るく接することができるようになった。</li> </ul>
<p>他の職員への展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のクラスも同様な方法で活用し、2学期に向けての課題を明確にすることができた。何もない話し合いよりも具体的に担任からも確認の言葉が聞け、前向きな保育が期待される。</li> <li>・普段なかなか担任・加配保育士とじっくり話し合う時間がもてないが、今回、事前シートの作成と一緒に取り組んだことで共通理解できたことも多くあった。</li> </ul>
<p>労力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前情報シートが細かく深い捉え方ができるが、書く枠が多いことが担当の記録時間が増えたことにもつながってしまった。</li> <li>・事前情報シート記入は初めてということで、準備に時間がかかった。今後は前もって作成時間を（早めに）確保していこうと思う。</li> <li>・良い方法ではあるが、担当の負担もあり事前情報シート活用は躊躇する。</li> </ul>

表 3 - 1 ② 園の巡回支援直後のアンケート結果（自由記述）

(イ) 児童クラブの巡回支援直後のアンケート結果を表3-2に示す。

1 アンケート回答者：60名（検討会参加者全員）									
2 実施クラブ：7か所									
巡回支援(事例検討会)に参加して									
選択肢 >>	1：思う	1	2	3	4	中央値	回答数		
	2：少し思う	度数							
	3：あまりそう思わない								
	4：思わない								
(1)	支援者が対応に困る子は、その子本人も困っていることに気が付いた	44	15	0	0	1	59	※1人未回答	
(2)	支援者が対応に困る子は、その子自身の苦手さもあるが、支援や周りの環境によるところも大きいことがわかった。	50	9	1	0	1	60		
(3)	支援者が対応に困っている状況には多くの場合、その状況をもたらしている要因が複数あることがわかった。	50	9	1	0	1	60		
(4)	子どものできない部分ばかり見ていたことに気がついた	20	32	3	5	1	60		
(5)	子どものできている部分を見つけることが、支援の手立てにつながることをわかった。	49	9	1	1	1	60		
(6)	子どものできていることやできていないことだけでなく、環境や場面とセットで子どもを見ていくことが支援に有用であることがわかった。	48	10	1	0	1	59	※1人未回答	
(7)	子どもにがんばらせるよりも環境を整える方が、より早く子どもの支援につながることをわかった。	36	23	0	0	1	59	※1人未回答	
(8)	巡回相談事前シートの捉え方で子どもの情報を把握することで、子どもの発達支援を効果的に進めていける。	40	13	6	0	1	59	※1人未回答	
(9)	巡回相談事前シートを用いた検討会に参加して、子どもに関わる気持ちがポジティブになった。	38	17	3	0	1	58	※2人未回答	
(10)	今回の巡回相談事前シートを他の子どもにも活用してみたい。	34	22	2	1	1	59	※1人未回答	

表3-2① 児童クラブの巡回支援直後のアンケート結果

<p>子どもを見る視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守らないと決める前に、その原因があることも分かり、本児に対して接し方を自分の中で変える良い経験になった。</li> <li>・「もし自分がその子だったらどんな思いでいるか?」、本児の目線になって考えることができたのは、とても心に残った。相談した児童についてだけでなく、どの児童に対しても大切にしていきたいことを学べた。</li> <li>・子どもの良いところに目を向けることはとても良い支援になると思う。苦手なことを個性として見る視点も大事なことであるように思う。</li> </ul>
<p>支援員間での認識の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ全員で対象になる子どものことを考えて共有することで、その子に対するの取り組みが違ってくると思う。</li> <li>・支援員全員で同じ話を聞き、共通認識をもてたことがとても良かった。</li> <li>・日々の支援で煮詰まることもあり、他の支援員の方々がそれぞれ子どもに対して、どのように対応されているかを話し合う機会はほぼない。ミーティング時間もわずかなため、このような場はとてもありがたく、勉強になった。</li> </ul>
<p>新しい気づき</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え方の工夫がもっとできると気づけた。</li> <li>・パニックになっているときの対応など、参考になることが多く、知識を持って対応すると余計な労力を使わずに、お互い穏やかに接することができることに気づいた。</li> </ul>
<p>今後の姿勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ちが楽になり、居心地の良い場所になるように支援したい。</li> <li>・子どもの自己肯定感を高めるためにも、私たち支援員がポジティブに楽しく指導できるように頑張らなくてはと思った。</li> <li>・困っている子、困った子に対して支援員の対応が整理整頓され、他児にも活用できると感じた。クラブで悪目立ちしない子や手のかからない子も何かしら困っていないか気を付けて見ていきたい。</li> </ul>
<p>検討会の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様子、支援員の関わり方を実際に見ていただき、それを踏まえたうえで、巡回支援を行ってくださるとより良いと思った。</li> <li>・できれば、対象児を継続的に観察、支援をし、その子の成長につなげていけるしくみ作りをしてほしい。</li> </ul>

表3-2① 児童クラブの巡回支援直後のアンケート結果（自由記述）

イ 巡回支援事例検討会でのうまくいく、うまくいかない要因の解析

園、児童クラブでの事例検討会でのうまくいく、うまくいかない要因の解析を表3-3に示す。

上手にいく先生の関り (子どもが過ごしやすいとき)		上手にいかない先生の関わり (子どもが過ごしにくいとき)	
保育園・幼稚園	児童クラブ	保育園・幼稚園	児童クラブ
<b>1. 本児の特性・特徴に見合う説明(38)</b> 例) 見本を示す、マークや目印を使う、数字で示す	<b>1. 気持ちを受け止める(12)</b> 例) 気持ちの代弁、寄り添う、受け止める、認める	<b>1. 本児の特性・特徴に見合わない説明(26)</b> 例) 言葉だけの説明、見本が	<b>1. 本児の特性・特徴に見合わない遊び(10)</b> 例) 難しく複雑なルール
<b>2. 繰り返し行う(26)</b> 例) 決まった方法を繰り返し経験させる	<b>2. 特性・特徴に見合う説明(10)</b> 例) 見本を示す、マークや目印を使う、数字で示す	<b>2. 特性・特徴に見合わない遊びの提供(14)</b> 例) 難しく複雑なルール	<b>2. 制止・注意・指摘(5)</b>
<b>3. 気持ちを受け止める(24)</b> 例) 気持ちの代弁、寄り添う、受け止める、認める	<b>3. 特性・特徴に見合う遊びの提供(8)</b> 例) ルールが簡単(1つか2つくらい)	<b>3. 制止・注意・指摘(12)</b>	<b>2. 本児の特性・特徴に見合わない声かけ(5)</b> 例) 全体での指示、言葉だけの声かけ、曖昧な声かけ
<b>4. 事前予告をする(13)</b>	<b>4. 褒める、励ます(6)</b>	<b>4. 特性・特徴に見合わない声かけ(4)</b> 例) 全体での指示、言葉だけの声かけ、曖昧な声かけ	<b>4. 特性・特徴に見合わない説明(4)</b> 例) 言葉だけの説明、見本がない、目に入るものが多い
<b>5. 本児の特性・特徴に見合う声かけ(12)</b> 例) 簡単に分かりやすい説明、行動と言葉をセットにする	<b>5. 事前予告がある(3)</b>		<b>5. 気持ちを受け止めない(1)</b> 例) 行動や気持ちを否定、命令口調
<b>6. 褒める、励ます(11)</b>	<b>6. 個別対応(2)</b> 例) 1対1、少人数(2~3人)	<先生の関り以外のうまくいかない環境>	
<b>7. 個別対応(8)</b> 例) 1対1、少人数(2~3人)	<b>6. 繰り返し(2)</b> 例) 習慣になっていること、決まった方法、経験したこと	<b>1. 初めての事(18)</b> 例) 初めての経験、新しい出来事	<b>1. 友達からバカにされる(4)</b>
<b>8. 特性・特徴に見合う遊びの提供(7)</b> 例) ルールが簡単(1つか2つくらい)	<b>8. 本児の特性・特徴に見合う声かけ(1)</b> 例) 簡単に分かりやすい説明	<b>2. 人が多い場所(4)</b>	<b>1. 初めての事(4)</b> 例) 初めての経験、新しい出来事

表3-3 うまくいく、うまくいかない要因の解析



・巡回支援を頼んだ際の相談内容では、園は内容が多岐にわたっていた。一方、児童クラブの相談はほとんどが「他害」や「感情のコントロールができない」というものであった。その点も大きく影響していると考えられるが、園では、うまくいく関わりが「本児の特性・特徴に見合った説明」や「繰り返し行う」という具体的な支援が上位を占めており、児童クラブでは「気持ちを受け止める」という情緒面の支援が上がっていました。

#### ウ 巡回支援評価アンケート

(ア) 園の巡回支援評価アンケート結果を表3-4に示す。

アンケート回答							
1 回答者：巡回支援事前記録作成者 18名							
2 巡回支援からアンケートまでの期間：平均約5か月（最短2か月半、最長7か月）							
<b>巡回支援(事例検討会)のその後の様子について</b>							
選択肢 >>	1：見通しが立った 2：見通しは立たなかった（巡回支援前と変わらない）	1	2		中央値	回答数	
		度数					
(1)	巡回支援後、相談内容について対象のお子さんへの接し方や関わり方に見通しが立ちましたか？	17	1		1	18	
選択肢 >>	1：改善された 2：少し改善された 3：あまり改善されなかった 4：改善されなかった	1	2	3	4	中央値	回答数
		度数					
(2)	巡回支援後、相談内容は改善されましたか？	3	14	1	0	2	18
選択肢 >>	1：見られた 2：見られなかった	1	2		中央値	回答数	
		度数					
(3)	巡回支援後、相談内容について対象のお子さんには「よい変化」が見られましたか？	17	1		1	18	
(4)	「よい変化」が見られた内容（複数回答可）	人数		評定平均値 x / 5			
	①表情が明るくなった	6		4.1			
	②穏やかになった	4		3.3			
	③保育士・教諭との関係がよくなった	9		3.9			
	④できることが増えた	11		3.5			
	⑤笑顔が増えた	6		3.8			
	⑥興味が広がった	8		3.6			
	⑦他児と仲良く遊ぶ姿が増えた	7		3.7			
	⑧気持ちが崩れにくくなった	6		3.3			
	⑨その他	4		3.0			
	(内容) 自信がついた、伝わりやすくなった、自分の意志を伝えるようになった、言葉を丁寧に話すようになった、活発になった。						

表3-4① 園の巡回支援評価アンケート結果

選択肢 >> 1 : ある 2 : ない		1	2	中央値	回答数		
		度数					
(5)	巡回支援後、ご自身の日頃の保育・教育に取り入れるようにした事がありましたか？	18	0	1	18		
(6)	日頃の保育・教育に取り入れるようになった事（複数回答可）	人数		選択率			
	①子どもの気持ちを考え、子どもの視点に立って考えること	14		77.8%			
	②環境や場面とセットで子どもを見ること	7		38.9%			
	③子どものできている部分や子どもができている場면을積極的に見つけること	15		83.3%			
	④できていた場면을ヒントに環境を整えたり、支援方法を工夫すること	13		72.2%			
	⑤子どもの特性や特徴に合わせた関わりをすること	12		66.7%			
	⑥他の先生の意見を聞くことや、他の先生と話し合うこと	9		50.0%			
	⑦子どもの日々の生活エピソードをつなげて、その全体像から子どもを理解すること。	1		5.6%			
(7)	子どもに関わる気持ちの変化について	人数		選択率			
	①巡回支援の後ポジティブに変化し、それが持続している	10		55.6%			
	②巡回支援の後ポジティブに変化したが、少しもとに戻った	7		38.9%			
	③巡回支援の後ポジティブに変化したが、元に戻った	1		5.6%			
	④巡回支援の後、特に気持ちの変化はない	0		0.0%			
	⑤巡回支援を受ける前から、ポジティブである	0		0.0%			
選択肢 >> 1 : 思う 2 : 少し思う 3 : あまり思わない 4 : 思わない		1	2	3	4	中央値	回答数
		度数					
(8)	事前提出書類の子どものとらえ方は、他の子どもの理解や支援にも有効だと思いますか。	11	7	0	0	1	18

表 3 - 4 ② 園の巡回支援評価アンケート結果

(イ) 児童クラブの巡回支援評価アンケート結果を表3-5に示す。

1 アンケート回答者：児童クラブ主任（7名）							
※1名は対象児が退所したため（1）～（4）は未記入							
2 巡回支援期間：6月30日～12月2日							
3 アンケート実施時期：1月下旬							
4 巡回支援からアンケートまでの期間：平均4か月（最短2か月、最長7か月）							
1 研修会に参加して							
選択肢 >>	1：見通しが立った 2：見通しは立たなかった（巡回支援前と変わらない）	1	2		中央値	回答数	
		度数					
(1)	巡回支援後、相談内容について対象のお子さんへの接し方や関わり方に見通しが立ちましたか？	6	0		1	6	
選択肢 >>	1：改善された 2：少し改善された 3：あまり改善されなかった 4：改善されなかった	1	2	3	4	中央値	回答数
		度数					
(2)	巡回支援後、相談内容は改善されましたか？	0	6	0	0	2	6
選択肢 >>	1：見られた 2：見られなかった	1	2		中央値	回答数	
		度数					
(3)	巡回支援後、相談内容について対象のお子さんには「よい変化」が見られましたか？	5	1		1	6	
(4)	「よい変化」が見られた内容（複数回答可）	人数			評定平均値 x/5		
	①表情が明るくなった	0					
	②穏やかになった	2			2.5		
	③保育士・教諭との関係がよくなった	2			3.0		
	④できることが増えた	1			3.0		
	⑤笑顔が増えた	1			3.0		
	⑥興味が広がった	0					
	⑦他児と仲良く遊ぶ姿が増えた	2			3.0		
	⑧気持ちが崩れにくくなった	3			2.7		
	⑨その他	2			2.5		
	(内容) ・周りの子に本児の良さを伝えられるようになったので、認めてもらえ安心できるようになった。 ・支援員からの声掛けが変わり、極端に怒ることが減った。						

表3-5① 児童クラブの巡回支援評価アンケート結果

選択肢 >> 1:ある 2:ない		1	2	中央値	回答数		
		度数					
(5)	巡回支援後、ご自身の日頃の支援に取り入れるようにした事がありましたか？	7	0	1	7		
(6)	日頃の保育・教育に取り入れるようになった事（複数回答可）	人数		選択率			
	①子どもの気持ちを考え、子どもの視点に立って考えること	6		85.7%			
	②環境や場面とセットで子どもを見ること	3		42.9%			
	③子どものできている部分や子どもができている場面を積極的に見つけること	5		71.4%			
	④できている場面をヒントに環境を整えたり、支援方法を工夫すること	0		0.0%			
	⑤子どもの特性や特徴に合わせた関わりをすること	5		71.4%			
	⑥他の先生の意見を聞くことや、他の先生と話し合うこと	4		57.1%			
	⑦子どもの日々の生活エピソードをつなげて、その全体像から子どもを理解すること。	2		28.6%			
(7)	子どもに関わる気持ちの変化について	人数		選択率			
	①巡回支援の後ポジティブに変化し、それが持続している	2		40.0%			
	②巡回支援の後ポジティブに変化したが、少しもとに戻った	2		40.0%			
	③巡回支援の後ポジティブに変化したが、元に戻った	0		0.0%			
	④巡回支援の後、特に気持ちの変化はない	0		0.0%			
	⑤巡回支援を受ける前から、ポジティブである	1		20.0%			
選択肢 >> 1:思う 2:少し思う 3:あまり思わない 4:思わない		1	2	3	4	中央値	回答数
		度数					
(8)	事前提出書類の子どものとらえ方は、他の子どもの理解や支援にも有効だと思いますか。	5	2	0	0	1	7

表 3 - 5 ② 児童クラブの巡回支援評価アンケート結果

巡回支援評価アンケートより、特徴的なものについて、園、児童クラブを合わせてまとめたものを以下に示す。

図 3-6 (1) 子どもの関り方への見通し

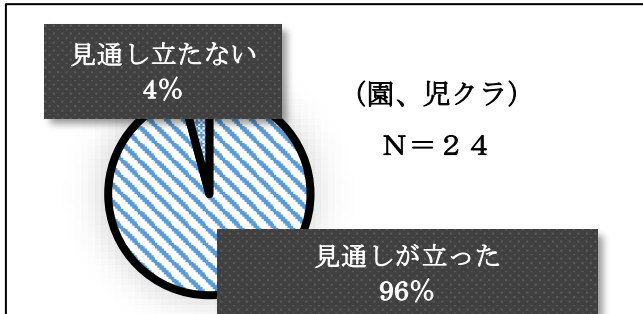


図 3-7 (3) 対象児の「よい変化」

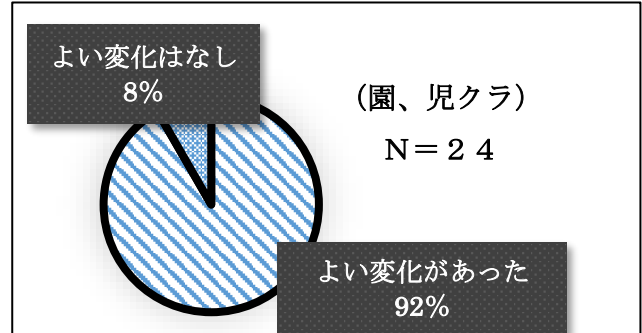
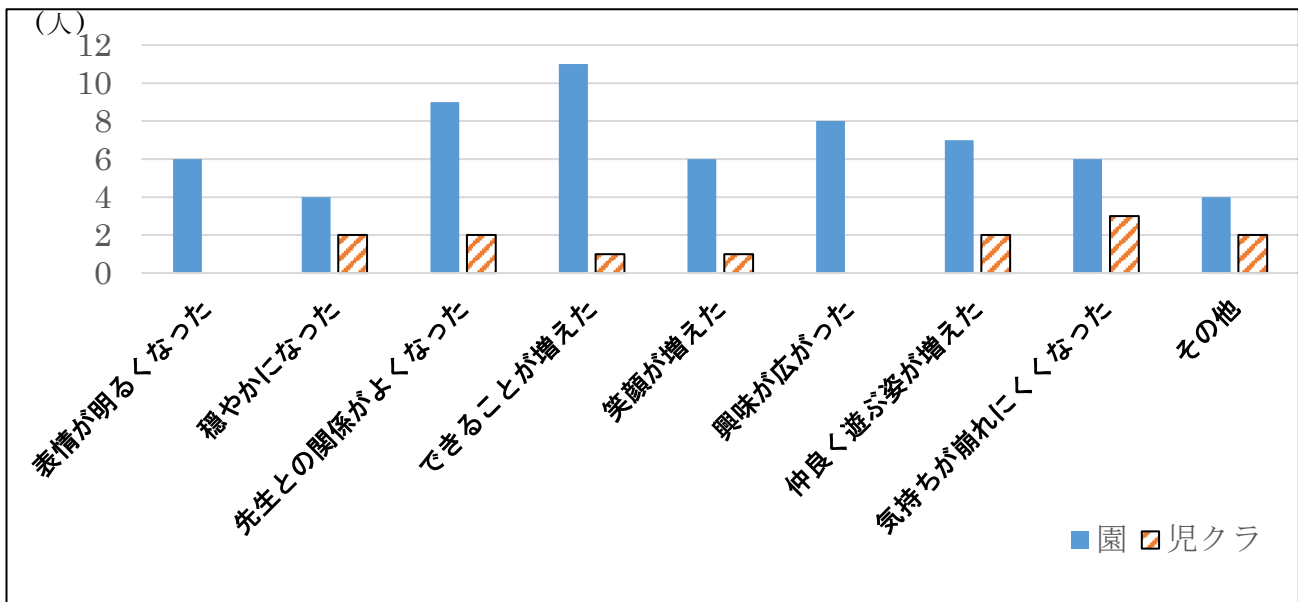


図 3-8 (4) 対象児の「よい変化」の内容



- ・園、児童クラブの先生ともに、巡回支援により関わり方の見通しが持て、子どもに変化が見られた。
- ・児童クラブに比べ園の先生の方が、子どもの変化をよく感じていた。幼児期からICFの観点での支援の必要性がうかがえる結果となった。

図 3 - 9 (5)日頃の支援に取り入れたことはあるか

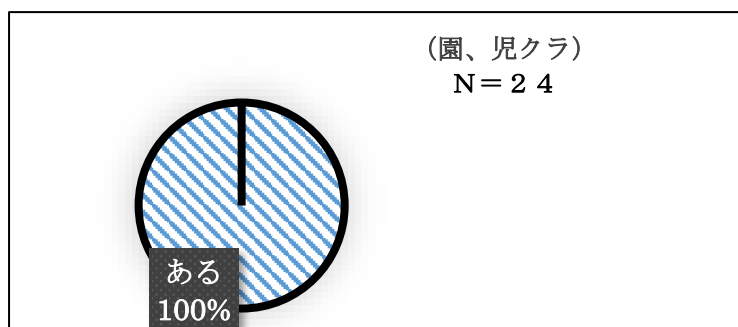
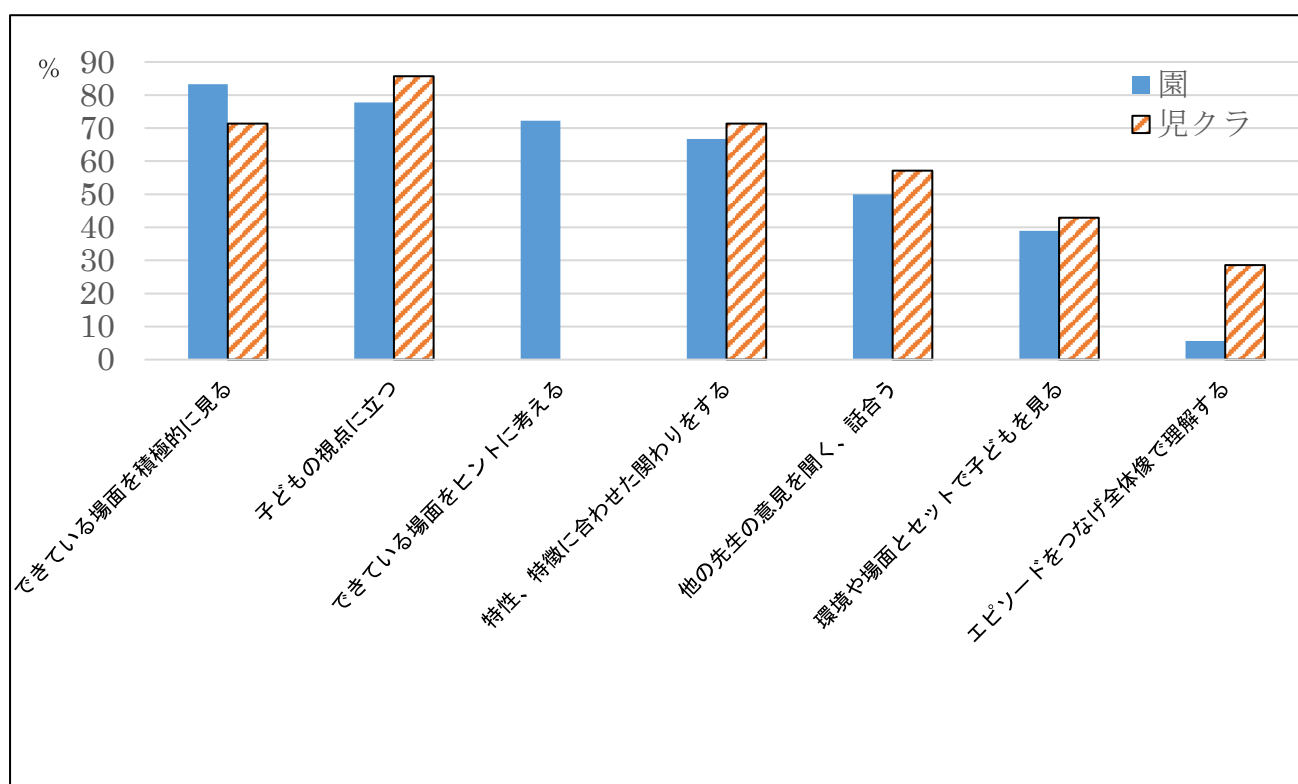


図 3 - 10 (6)日頃の保育等に取り入れるようになった事 (複数回答)



- ・巡回支援を受けた支援者は、全員日頃の支援に何らかを取り入れていた。
- ・日頃の支援に取り入れるようになった具体的内容では、「できている場面を見る」「子どもの視点に立つ」ことは、園、児童クラブともに70%以上の割合で取り入れられていた。
- ・一方「環境や場面とセットで子どもを見る」「エピソードをつなげ、全体像で理解する」ことは、園、児童クラブともに50%未満であった。

図 3-1-1 巡回支援直後 (園)

(6) 「環境や場面とセットで子どもを見る  
必要性を理解した」

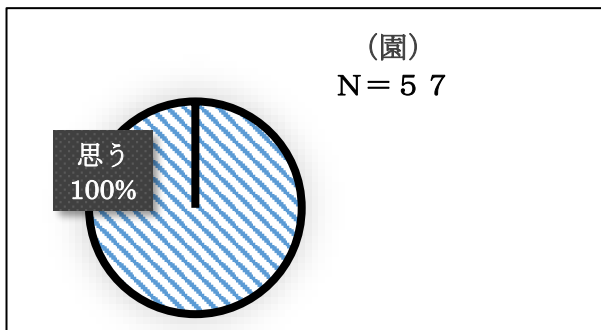


図 3-1-3 巡回支援約 4 か月後 (園)

(6) 行動変容「環境とセットで子どもを見る」

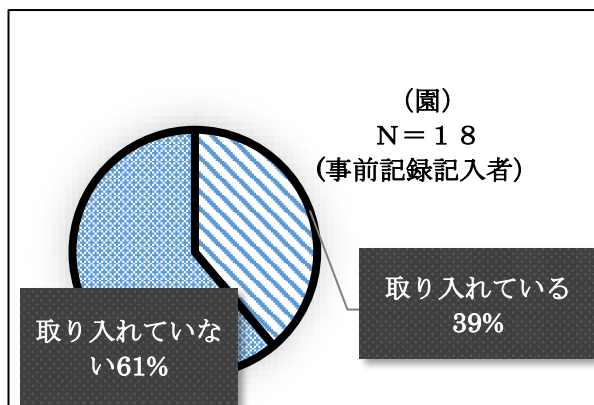


図 3-1-2 巡回支援直後 (児童クラブ)

(6) 「環境や場面とセットで子どもを見る  
必要性を理解した」

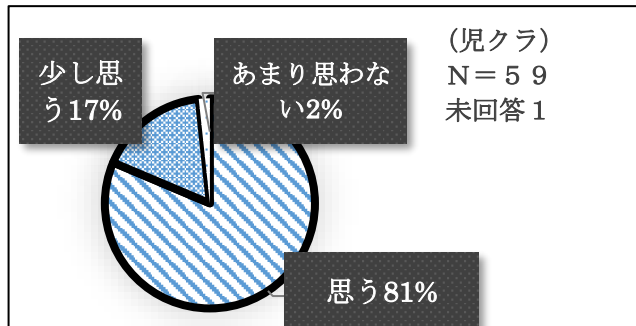
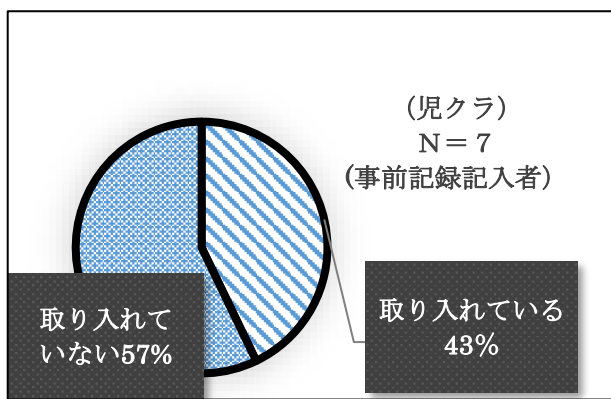


図 3-1-4 巡回支援約 4 か月後 (児クラ)

(6) 行動変容「環境とセットで子どもを見る」



・「環境や場面とセットで子どもを見ること」の理解は、巡回支援直後には、園で全員が、児童クラブでは 81% が理解できていた。しかし、巡回支援の約 4 か月の行動変容では、園、児童クラブともに、約 40% にとどまっていた。「環境とセットで子どもを見る」ことについては、1 度の巡回支援だけではなく、継続的な支援が必要であることがうかがえる結果となった。

図 3 - 1 5 巡回支援約 4 か月後 (園)

(7) 子どもに関わる気持ちの変化

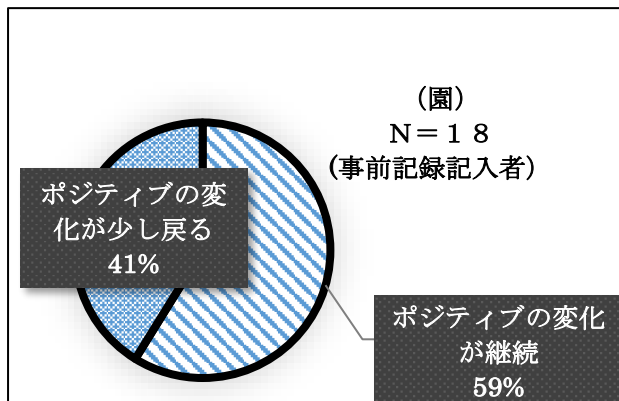
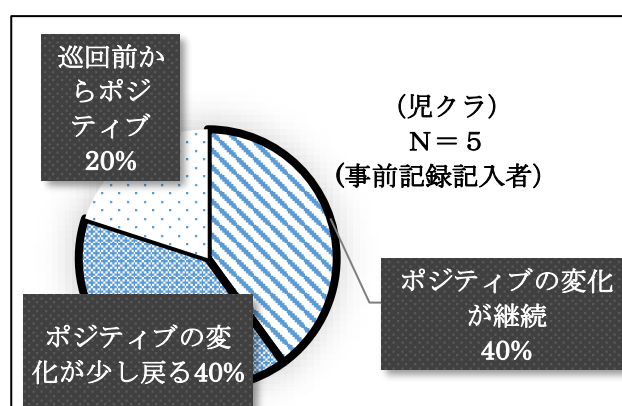


図 3 - 1 6 巡回支援約 4 か月後 (児クラ)

(7) 子どもに関わる気持ちの変化



・巡回支援により、支援者は子どもに関わる気持ちがポジティブになるが、約40%がその気持ちが少し戻っていた。

図 3 - 1 7 巡回支援直後 (園)

(11) 事前情報シートを他児に活用したい

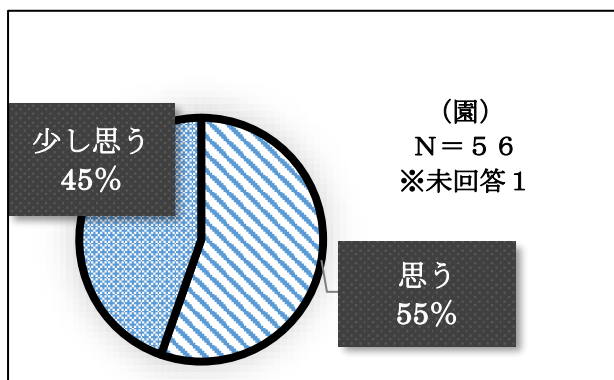


図 3 - 1 8 巡回支援直後 (児クラ)

(10) 事前情報シートを他児に活用したい

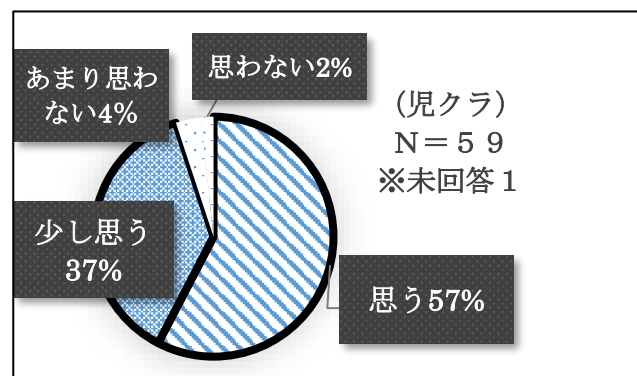


図 3 - 1 9 巡回支援約 4 か月後 (園)

(8) 事前情報シートは他児の支援にも有効

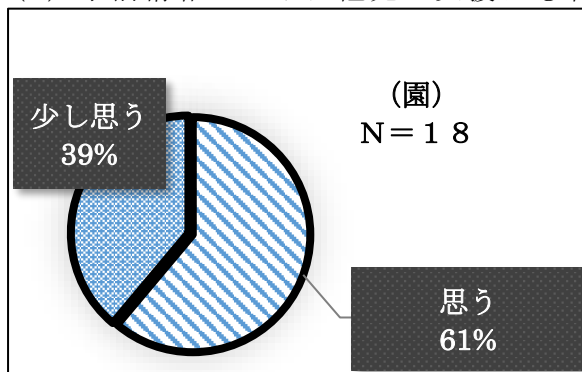
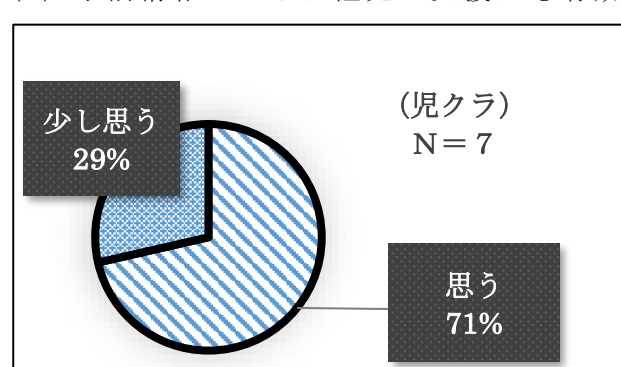


図 3 - 2 0 巡回支援約 4 か月後 (児クラ)

(8) 事前情報シートは他児の支援にも有効





・巡回支援事前情報シートの他児への有効性について、巡回支援直後、その4か月後においても、全員が肯定的な回答をされていた。他児への波及も期待される結果であった。

図3-21 巡回支援直後（園）

自由記述（労力について）

労力

- ・事前情報シートが細かく深い捉え方ができるが、書く枠が多いことが担当の記録時間が増えたことにもつながってしまった。
- ・事前情報シート記入は初めてということで、準備に時間がかかった。今後は前もって作成時間を（早めに）確保していこうと思う。
- ・良い方法ではあるが、担当の負担もあり事前情報シート活用は躊躇する。

・巡回支援事前情報シートの他児への有効性について感じている一方で、事前情報シートに慣れていないこと、記入枠が多いことなどが、園では負担と感じているひともいた。

・児童クラブでは労力についての負担はあげられていなかった。

・児童クラブでは、支援員10名ほどが、全員で気づいたことをシートに記入し、それをまとめる方法をとっていた。園では、ほとんどが担当保育士1人で記入する方法をとっており、この違いも労力の負担に影響したのではと考えられる。

エ 企画・推進委員会での評価

企画・推進委員会での事業評価を、図3-22に示す。

図3-22 企画・推進委員会での事業評価

<p>事例検討会の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでコンサルテーションの限界と言われていたように、専門家の知識で伝えても、その場では納得されるが、現場の先生がそれをどうやって活かしていいかわからないことが多かった。これが、現場の先生方だけだどり着いたことが非常に大きなことである。</li> <li>・取り組み内容を聞き、車輪の再発明は必要なのだと思った。専門家がアドバイスを伝えるだけでは、現場に定着するものではないと感じた。科学的にはわかっているけど、小学生の実験のように自分たちで実施し実感することで、本当に身に付きわかっていく。支援者にもそういうことが、必要。この事業にはそのプロセスが見えていて、とてもよい取り組みである。</li> </ul>
<p>保育士・子どもの変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園で対応に困っていた先生が、環境とセットで子どもを捉え、担任だけでなく園全体で共有し、取り組むことで子どもの姿が変わってきたという報告も受けている。</li> <li>・事業所を活用していない子どもへの支援において、園の先生の手がかりとなり「光が差ししました」と言われていた。園の支援においていい機会になった。</li> <li>・事前研修を実施してくれたことにより、園長、主任の理解が進んだことが一番良かった。そこから、担任に対する指導が適切にできる。</li> </ul>
<p>他児への波及</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から事前情報シートの他の子へ応用できるという回答がかなりあり、波及効果を感じられるので、施策的にもよい取り組みであると思う。</li> </ul>

## 就学前からの必要性

・園と児童クラブの回答の傾向がちがうという説明があったが、これは子どもの成長発達からすると当然な姿だと思う。成長発達の中で自分の姿を内面化し、それとどう向きあうかが課題となる。就学前の幼少期に適切な支援を受けていないと、内面化されている自己がネガティブなものになる。すると気持ちをうけとめるという支援からスタートしないといけなくなる。そういった意味でも就学前から活用し、学校につなげていけるとよい。

### (7) 考察

事前情報シートによる子どもの多角的な情報を用いた事例検討方法により、子どもの姿を子ども自身の得意、苦手さと環境（場面や関り）によるものにとわけて考えることができた。それにより、どのような関わりが対象児によいか、支援者自らが実感したことで、子どもへの関わりに見通しが持てるようになった。事例検討会において職場内で子どもの情報を共有したことで、園全体、児童クラブ全体で共通の視点と支援方法で取り組むことができ、子どもの姿に「よい変化」が見られた。

巡回支援後に「できている場面を見る」「子どもの視点に立つ」ことを、日頃の支援に取り入れるようになった支援者が多かった。一方で、「環境とセットで子どもを見る」ということに関しては、理解はしていたが、日頃の支援に取り込むまでいかない人が半数いた。

これらのことから、事前情報シートを活用した巡回支援は、支援者にICFの考え方を実感させ、子どもの関わり方への見通しを持たせ、職場全体で子どもの情報を共有することに有効である。また、その結果、子どもの姿により変化をもたらした。これらの視点や支援考案の考え方は、巡回支援対象児だけでなく、他児への有効性も感じられており、波及効果が期待できる。しかし、「環境とセットで子どもを見る」ということに関しては、一度の支援では浸透しきれないため、継続的な支援が必要である。

#### 4 ICFの観点を取り入れた保護者向け研修のモデル実施

##### (1) 実施目的

ア ICFの観点を取り入れた保護者向け研修を実施し、保護者向けにICFの考え方をわかりやすく伝え、ICFの視点形成に役立てる。

イ モデル的に実施し、今後の継続性を検討する。

##### (2) 周知先と参加者

ア 周知先：親子の会「カラフル」会員、ICFシステム活用事業所の保護者

イ 参加者：13名（子どもの年代内訳：園児3名、小学生6名、中学生2名、高校生2名）

ウ オブザーバー参加（支援者）：6名（相談支援専門員2名、事業所支援員4名）

##### (3) 講師等

講師：北海道大学大学院 教育学研究院 安達 潤 教授

ファシリテーター：福祉課巡回支援専門員、保育士、保健師、看護師

##### (4) 実施日時

令和3年11月25日（木）9時30分から12時30分まで

##### (5) 研修内容

ア 生活の中の苦手さってなんだろう

イ 子どもの気持ちを考えてみよう

ウ 子どもの理解を深めるためのコツ

エ 環境調整の支援について

オ グループワーク

「子どものよさ・できること、苦手さ」を考える。本人と環境の観点で整理する。

##### (6) グループワークシートの構成

ア 子どもの現在の様子：よさ・できること、気になるに分けて記入

イ 子どもの現在の様子：よさ・できること、気になるとを本人のよさ・苦手さと、環境に分けて記入

図4-1、図4-2にそのグループワークシートを示す。

【ステップ1 シート】

子どもの現在の様子（就学前・学齢期）

子ども理解シート  
 (ステップ1)

作成日: 年 月 日

才 月 氏名:

よさ・できること	気になること
日常生活の中の「よい」エピソードを簡単に書きましょう	日常生活の中の「気になる」エピソードを簡単に書きましょう

図 4 - 1 グループワークシート①

【ステップ2 シート】

子どもの現在の様子（就学前・学齢期）

子ども理解シート  
 (ステップ2)

作成日: 年 月 日

才 月 氏名:

よさ・できること		気になること	
本人について	環境について	本人について	環境について
記入内容 【どんな時かわからないけど】 ～～はできている ～～が得意 ～～なよい状態になってきた	記入内容 ～～(場所や時)に…できる。 ～～(人や物)となら…できる。 ～～のように関われば…できる。 その他、子どもの育ちに プラスの出来事など。	記入内容 【どんな時かわからないけど】 ～～はできづらい ～～は苦手 ～～の状態が気にかかる	記入内容 ～～(場所や時)に…できづらい。 ～～(人や物)となら…しない。 ～～のように関わると…しない。 その他、子どもの育ちに マイナスの出来事など。

図 4 - 2 グループワークシート②

(7) 事業効果を検証する方法

ア 保護者向け研修会にかかわるアンケート

保護者向け研修会の内容理解や、研修を受けたことでの気づきについて評価することを目的として、研修参加者を対象に質問票を実施した。

図4-3に保護者向け研修会にかかわるアンケートを示す。

令和3年度 保護者向け研修会 アンケート	
本日は研修会へのご参加、ありがとうございました。 今回の研修について、以下の質問にご回答いただきますよう、お願いいたします。 (該当する選択肢の□に☑をして下さい)	
質問01) 子どもの苦手さを環境（場面や条件）の工夫で軽減できることがわかった。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問02) 子どもの苦手さだけに気持ちを向けるよりも、環境（場面や条件）の工夫にも気持ちを向けた方が、保護者として前向きになれると思う。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問03) 子どもの気持ちを考えることで、環境（場面や条件）を工夫することの大切さが、よりはっきりとわかった。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問04) 「プラス志向の子ども理解」をすることで、環境（場面や条件）を工夫することがうまくなっていくと思う。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない
質問05) 「物の環境調整支援」だけでなく「人の環境調整支援」も子どもの育ちにとって大事だとわかった。	
<input type="checkbox"/> 思う	<input type="checkbox"/> 少し思う
<input type="checkbox"/> あまり思わない	<input type="checkbox"/> 思わない

図4-3 保護者向け研修会のアンケート（表）

質問 06) 子どもの「気になること・苦手さ」だけでなく「よさ・できること」を見つけていくことで、子どもの理解がより深くなり支援につながるようになった。

- 思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 07) ペアワークをやることで、自分の子どもの理解が深まった。

- 思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 08) ペアワークで作成した子ども理解シートは、これからの子育てに役立つと思う。

- 思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 09) 子どもの「気になること・苦手さ」や「よさ・できること」だけでなく、環境や場面と  
セットで子どもを見ていくことが支援に有用であることがわかった

- 思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 10) 子どもにがんばらせるよりも、環境を整える方が、より早く子どもの支援につながるようになった

- 思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 11) 今回のような考え方を支援者にも広く知ってほしい

- 思う       少し思う       あまり思わない       思わない

質問 12) 今回の保護者研修会の全体としての評価をご回答下さい

- とてもよかった       よかった       よくなかった       まったくよくなかった

【研修の感想をご自由にお書き下さい】

たくさんのご記入、ありがとうございました。

イ 保護者向け研修会評価アンケート

研修会の約2か月後に、研修会後の保護者や子どもの変化および研修会の評価をすること目的として、保護者向け研修会参加者を対象に質問票を実施した。

図4-4に保護者向け研修会評価アンケートを示す。

ウ 企画・推進委員会での事業評価

企画・推進委員会での事業を報告し、評価を受けた。



### 令和3年度 保護者向け研修 その後の様子について

保護者向け研修を受けていただいた皆様へ

研修会の評価のため、その後様子についてお伺いさせていただきたく、

お手数ですが、以下の質問にご回答お願い致します。(該当する選択肢の□に☑をして下さい)

質問 01) 研修会参加後、お子さんへの接し方や関わり方に新しい気づきが得られましたか？

- 新しい気づきがあった  新しい気づきはなかった (研修参加前と変わらない)

質問 02) 研修会で学んだ内容から、子どものよさにつながる子育てのやり方が見つかりましたか？

- 見つかった  見つからなかった (研修参加前と変わらない)

質問 03-①) 研修会参加後、お子さんとの関わりには「よい変化」が見られましたか？

- 「よい変化」が見られた  よい変化は特に見られなかった (研修参加前と変わらない)

↓

質問 03-②) お子さんとの関わりでのよい変化の中で、お子さん自身には「よい変化」が見られましたか？

- 見られた  見られなかった → 右の1か2を丸囲み (1.変化なし 2.悪くなった)

↓

→ 質問 04-①へ

質問 03-③) お子さん自身に見られた「よい変化」にあてはまるものすべてに☑をしてください。

- 表情が明るくなった  笑顔が増えた  
 穏やかになった  興味が広がった  
 保護者(記入者ご自身)との関係がよくなった  できることが増えた  
 気持ちが崩れにくくなった  
 その他 ( )

質問 04-①) 研修会参加後、ご自身の日頃の子育てに取り入れるようにした事がありましたか。

- ある  ない→質問 05) へ

↓

質問 04-②) 日頃の子育てに取り入れるようになった事すべてに☑をして下さい。

- 子どものよさを見つけること  
 子どもの気持ちを考え、子どもの視点に立って考えること  
 環境や場面とセットで子どもを見ること  
 子どものできている部分や子どもができていない場面を積極的に見つけること  
 できている場面をヒントに環境を整えたり、関わり方を工夫すること  
 先生や支援員の意見を聞くこと  
 他の保護者の話を聞いたり、話を聞いてもらうこと

質問 05) 子どもに関わる気持ちの変化について。

- 研修会の後ポジティブに変化し、それが持続している  
 研修会の後ポジティブに変化したが、少しもとに戻った  
 研修会の後ポジティブに変化したが、元に戻った  
 研修会の後、特に気持ちの変化はない  
 研修会を受ける前から、ポジティブである

質問 06) 研修会で学んだ子ども理解のやり方を誰か(研修会参加者を含む)との話の中で話題にしましたか？

- 「よかった」と話題にした  「よくなかった」と話題にした  特に話題にはしていない

→ 話をした人は？ (1. 家族 2. 他の保護者さん 3. 園または学校の先生 4. 療育の先生 5. その他)

(あてはまるもの全部に○囲みして下さい)

[その他とは？ → ]

アンケートは以上です。ご協力誠にありがとうございました。

図 4 - 4 に保護者向け研修会評価アンケート

(8) 結果

ア 保護者向け研修会直後のアンケート結果

回答者数：11名（研修参加者13名）

アンケート時期：研修会直後

保護者向け研修会直後のアンケート結果を図4-5に示す。

選択肢 >>	1：思う 3：あまりそう思わない	2：少し思う 4：思わない	1	2	3	4	中央値	回答数
			度数					
(1)	子どもの苦手さだけを環境(場面や条件)の工夫で軽減できることがわかった。		11	0	0	0	1	11
(2)	子どもの苦手さだけに気持ちを向けるよりも、環境(場面や条件)の工夫にも気持ちを向けた方が、保護者として前向きになれると思う。		11	0	0	0	1	11
(3)	子どもの気持ちを考えることで、環境(場面や条件)を工夫することの大切さが、よりはっきりとわかった。		11	0	0	0	1	11
(4)	「プラス志向の子ども理解」をすることで、環境(場面や条件)を工夫することがうまくなっていくと思う。		11	0	0	0	1	11
(5)	「物の環境調整支援」だけでなく「人の環境調整支援」も子どもの育ちにとって大事だとわかった。		11	0	0	0	1	11
(6)	子どもの「気になること・苦手さ」だけでなく「よさ・できること」を見つけていくことで、子どもの理解がより深くなり支援につながるということがわかった。		11	0	0	0	1	11
(7)	ペアワークをやることで、自分の子ども理解が深まった。		11	0	0	0	1	11
(8)	ペアワークで作成した子ども理解シートは、これからの子育てに役立つと思う。		10	1	0	0	1	11
(9)	子どもの「気になること・苦手さ」だけでなく「よさ・できること」だけでなく、環境や場面とセットで子どもを見ていくことが支援に有用であることがわかった。		11	0	0	0	1	11
(10)	子どもにがんばらせるよりも、環境を整える方が、より早く子どもの支援につながるということがわかった。		11	0	0	0	1	11
(11)	今回のような考え方を支援者にも広く知ってほしい。		11	0	0	0	1	11
(12)	今回の保護者研修会の全体としての評価をご回答ください。		10	1	0	0	1	11

表4-1① 保護者向け研修会直後のアンケート結果

自由記述

- ・環境を整えること、大人や親の考え方や視点をほんの少し変えるだけで、子どもの苦しんでいること、困りごとを良い方向に変えていけると**希望が持てた**。
- ・子どもの良い面・悪い面と決めつけていたことが、シートに記入してみると**悪い面**と思っていたことも、**良いことにつながることも**わかり、大事にしないといけないことが具体的にわかり、とても役立った。
- ・自分の子どものよさについて、じっくり考える機会となった。親だけでなく、**学校の先生などにも広く知っていただけるとよい**と思った。
- ・ふせんに書くことで子どもの良い所がたくさん見えるようになってきた。困っている事もよいところにつながる事も勉強になった。**子どもをほめて楽しく子育てしていこう**と思った。
- ・今の成長を客観的に見直すことができた。本人の好きなものも改めてわかり、**今していることが環境に合っていることも**わかり、**自信につながった**。
- ・自分だけでは気づけなかった点をペアワークを通して**沢山気づける**ことができた。
- ・他のママも誘ってまた参加したい。丁寧に話を聞いてもらい、安心して話せた。**小学校に向けての不安が少し減った**。
- ・言葉に出すことで、冷静に考えられる機会になった。
- ・子どもの良い所をたくさん見つけて、**環境調整支援**をしていきたい。
- ・子どもの良さをたくさん発見できた。それを対応として、**子どもともう少し関わって向き合おう**と思った。

表4-1② 保護者向け研修会直後のアンケート結果（自由記述）

- ・受講者自身の気づき、研修内容の理解等、全てにおいて肯定的な回答であった。特に研修により、「子どものできていることやできていないことだけでなく、場面とセットで子どもを見ることが支援に有効であること」「子どもをがんばらせるよりも、環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる」、など ICF の考え方を理解することができた。
- ・全員が「今回のような考え方を支援者へも広く知ってほしい」と回答しているように、ICF の考え方のよさを実感していることが伺える結果であった。

イ 保護者向け研修会評価アンケート結果

回答者数：10名（研修参加者13名）

アンケート時期：研修会2か月後

保護者向け研修会評価アンケート結果を図4-6に示す。

1 研修会に参加して									
選択肢 >> 1：新しい気づきがあった 2：新しい気づきはなかった （研修参加前と変わらない）		1	2	度数		中央値	回答数		
(1)	研修会参加後、お子さんへの接し方や関り方に新しい気づきが得られましたか？	9	1			1	10		
選択肢 >> 1：見つかった 2：見つからなかった （研修参加前と変わらない）		1	2	3	4	度数		中央値	回答数
(2)	研修会で学んだ内容から、子どものよさにつながる子育てのやり方が見つかりましたか？	9	1			1	10		
選択肢 >> 1：「よい変化」が見られた 2：良い変化は特に見られなかった （研修参加前と変わらない）		1	2	度数		中央値	回答数		
(3)	研修参加後、お子さんとの関係には「よい変化」が見られましたか？	6	4			1	10		
選択肢 >> 1：見られた 2：見られなかった		1	2	度数		中央値	回答数		
(4)	お子さんとの関わりのよい変化の中で、お子さん自身には「よい変化」が見られましたか？	4	2			1	6		
お子さん自身に見られた「よい変化」にあてはまるもの（複数回答可）		人数							
①表情が明るくなった		0							
②穏やかになった		0							
③保護者との関係がよくなった		1							
④気持ちが崩れにくくなった		0							
⑤笑顔が増えた		0							
⑥興味が広がった		1							
⑦できることが増えた		4							
⑧その他		0							

表4-2① 保護者向け研修会評価アンケート結果

1 : ある 選択肢 >> 2 : ない		1	2	中央値	回答数	
		度数				
(5)	研修会参加後、ご自身の日頃の子育てに取り入れるようにした事がありましたか？	9	1	1	10	
(6)	日頃の子育てに取り入れるようになった事（複数回答可）	人数		選択率		
	①子供のよさを見つけること	7		77.8%		
	②子どもの気持ちを考え、子どもの視点に立って考えること	8		88.9%		
	③環境や場面とセットで子どもを見ること	6		66.7%		
	④子どものできている部分や子どもができている場면을積極的に見つけること	5		55.6%		
	⑤できている場面をヒントに環境を整えたり、関り方を工夫すること	5		55.6%		
	⑥先生や支援員の意見を聞くこと	2		22.2%		
	⑦他の保護者の話を聞いたり、話を聞いてもらうこと	1		11.1%		
(7)	子どもに関わる気持ちの変化について	人数		選択率		
	①研修会の後ポジティブに変化し、それが持続している	0		0.0%		
	②研修会の後ポジティブに変化したが、少しもとに戻った	6		75.0%		
	③研修会の後ポジティブに変化したが、元に戻った	2		25.0%		
	④研修会の後、特に気持ちの変化はない	0		0.0%		
	⑤研修会を受ける前から、ポジティブである	0		0.0%		
1 : 「よかった」と話題にした 選択肢 >> 2 : 「よくなかった」と話題にした 3 : 特に 話題にしてはしない		1	2	3	中央値	回答数
		度数				
(8)	研修会で学んだ子ども理解のやり方を誰か（研修会参加者を含む）との話の中で話題にしましたか？	8	0	0	1	8
(9)	話をした人は？	人数		選択率		
	①家族	6		75.0%		
	②他の保護者さん	4		50.0%		
	③園または学校の先生	0		0.0%		
	④療育の先生	1		12.5%		
	⑤その他	1		12.5%		

表 4 - 2 ② 保護者向け研修会評価アンケート結果

図 4-5 研修会 2 か月後

子どもの良さにつながる子育ての仕方

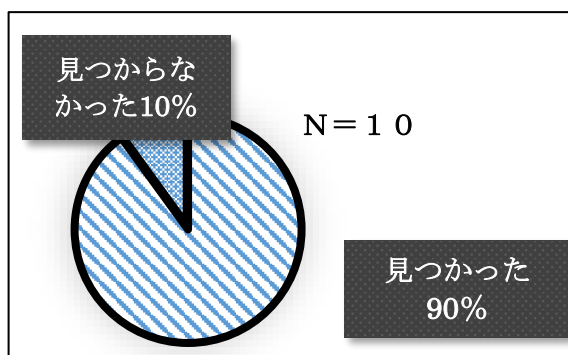


図 4-6 研修会 2 か月後

子育てに取り入れたこと

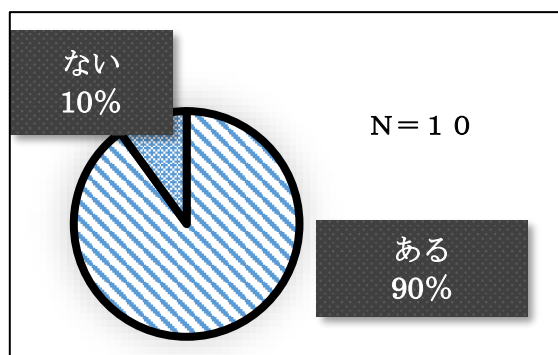
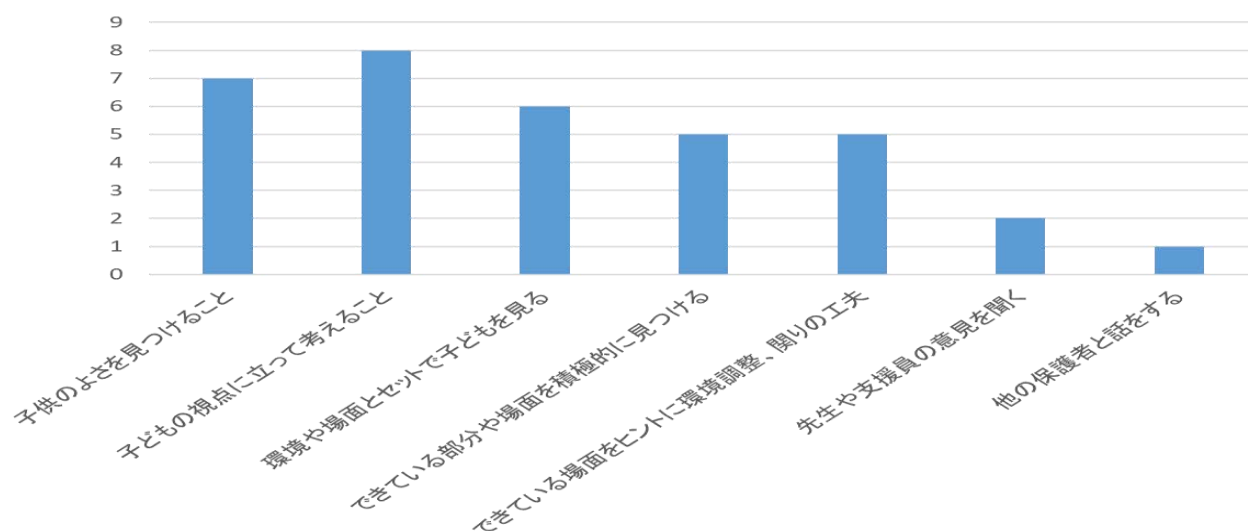


図 4-7 研修会 2 か月後 日頃の子育てに取り入れるようになった事



- ・研修後 2 か月で、90%が子どもの良さにつながる子育ての仕方を見つけ、取り入れていた。子育てに取り入れた内容では、「子どものよさを見つける」「子どもの視点に立つ」という項目が高い割合を占めていた。この点は、園、児童クラブの支援者のアンケートと同じ傾向であった。しかし、「環境や場面とセットで子どもを見る」ことは、保護者は 60%が取り入れており、園、児童クラブの支援者と比べて高い割合となっていた。
- ・子どもの「よい変化」については、40%は変化なしであった。これは、子どもの年代が保育園から高校生ままでと幅広かったことも影響していると考えられる。
- ・子どもに関わる気持ちの変化は、園、児童クラブに比べ、元に戻る方が多くいた。園や児童クラブでは他の職員も一緒に事例検討をし ICF の視点を知ったが、保護者は考えを共有する方が常に周りにいないことも影響しているのではないかと考える。

ウ 企画・推進委員会での評価

企画・推進委員会での事業評価を、図4-8に示す。

図4-8 企画・推進委員会での事業評価

研修内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・研修会を終えた保護者から、今後の子育てにおいて前向きな意見がたくさん聞かれた。</li><li>・ふせんに記入し整理していく方法がとてもよかった。情報の増えた感じがわかりやすかった。</li><li>・グループワークで他の保護者の意見を聞き、それを取り入れることもできたのもよかった。</li><li>・ファシリテーターが保護者をほめてくれる場面が多くあり、よかった。</li><li>・支援者向けのICF研修では保護者は難しすぎたが、今回の内容は楽しく取り組めたという意見が多くあった。</li><li>・ICFシステムを全てのお子さんを対象にするのは難しいと思うが、今回のように保護者にICFの考えを伝える機会をつくることで保護者にとっても子どもにとってもよい機会とある。</li></ul>
学校への広がり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ICFの視点を地域に広めるのに大切な視点であるが、今回の保護者研修のアンケートで、「支援者、学校の先生にもこの考えを知ってほしい」というものがあつた。支援者、学校の先生になかなか広がっていないと、保護者が思っていると事だと思う。</li><li>・「一貫した支援」とよく言われるが、一貫した支援を下支えする「地域の共通の視点」が必要で、それをまず作ることが大切である。その上ではICFの「環境とセットで捉えていく視点」はとても大切、保護者だけでなく、支援者、学校の先生方にも広まってほしい。</li></ul>
将来の展望	<ul style="list-style-type: none"><li>・今回の研修では旭川の“すくらむ”がベースになっていると伺つた。碧南市のサポートブックも“すくらむ”に近いものにするなど、できるところから始めていきたい。</li></ul>

#### (9) 考察

研修を終えた保護者から、今後の子育てに前向きな意見がたくさん聞かれ、子どもの良さにつながる子育ての仕方を見つけ、取り入れていた。ICFシステムをすべての子どもに活用するのは、支援者の労力の問題等で現実的には難しい。しかし、保護者にICFの考えを伝える機会をつくることで、保護者の子育てが変化している。また支援者と保護者が同様なICFの「子どもを環境とセットでとらえていく」視点を持つことは、「地域の共通の視点」として大変重要なことであり、研修の有効性が示唆された。

保護者研修を推進していくにあたっては、支援者も同様の視点を持つことで、「一貫した支援」につながるため、今後は支援者、特に学校へとこれらの考えを広めていく必要がある。



5 ICFシステム紹介チラシの作成

(1) 実施目的

児童発達支援または、放課後等デイサービスの事業所が ICF 情報把握・共有システムを活用したい児童の保護者への説明用に、チラシを作成し、ICFシステムについての理解を得やすくする。

(2) チラシ内容（3つ折り）

**ICFとは、「人の健康な育ちと暮らし」を考えるための道具です。** 国や文化、障害や困難性の有無を超えて誰もが使えるものとして、WHO（世界保健機関）が2001年に提唱したものです。日本では「国際生活機能分類」と呼ばれています。

ICFのもとにある考え方とは・・・

成功体験につながる環境、できるだけ失敗をさせない環境があれば、人は育っていく。障害や困難性も小さくなる！

今は、この考え方に基づいて実施している支援先が多くできています。

**あらためて、ICFシステムって何？**

子どもの特徴や特性と、生活の中の「うまくいく場面」や「うまくいかない場面」をていねいに調べ、うまくいく場面を工夫することで子どもの育ちを支えていくものです。

**ICFシステムを使った保護者の声**

これまで「できることはたくさんある」と言われても、疑心暗鬼であった。ICFシステムの活用で、できていることが具体的にわかり、子どもの見かたが変わり、自分も前向きになった。

支援者の協力がこれほど心強いものだと思わなかった。感謝している。

自分自身に精神的なゆとりができ、考え方が前向きにかわった。

今まで以上に学校や他機関に相談しやすくなった。

このICFシステム活用にあたっては、当事業所が情報を取りまとめますが、他にも利用している通所事業所や保育所等訪問支援の事業所、相談支援専門員、学校、園、病院（主治医等）方々にもご協力をいただいで実施していきます。

事業所名：  
電話（      ）      -

**事業所側が利用しようと思う人に説明する際に利用**

児童発達支援・放課後等デイサービスを利用している保護者様へ

**ICFシステム**  
(子どものよさを伸ばす子育て支援システムです)

**を使ってみませんか？**

【碧南市のキャッチフレーズ】  
Itoko いいとこ  
Chanto ちゃんと  
Fuetekuru ふえてくる

ICFシステム（ICF情報把握・共有システム）に関するお問い合わせ先  
碧南市役所 福祉課 発達支援係  
電話（0566）95-9885

- 2 -      - 6 -      - 1 -

図 5 - 1 ① ICFシステム紹介チラシ（表）



図5-1② ICFシステム紹介チラシ（裏）

(3) 効果検証

今年度は、コロナ禍の状況で、ICFシステム活用の新規活用児童がいなかったため、チラシを使う機会がなかった。次年度以降の新規活用児の保護者説明に活用していきたい。

## 6 ICF研修の市外事業所への拡大

### (1) 実施目的

ICFをもちいた地域支援体制づくり

福祉サービス事業所（碧南市の児童が利用している市内外の事業所）、相談支援事業所、保育園、幼稚園、学校等の支援者にICFシステムの活用研修を実施し、ICFシステムの活用促進および碧南市の地域支援体制の充実を図る。

### (2) 実施日時

第1回：情報収集編 令和3年6月24日(木)9時30分から15時まで

第2回：支援会議編 令和3年7月16日(金)9時30分から15時まで

### (3) 講師

北海道大学大学院 教育学研究院 安達 潤 教授

### (4) 参加者

19名（内訳は下記のとおり）

ア 保育園、幼稚園：9名

イ 事業所：5名（うち市外事業所2名、就労移行事業所2名）

ウ 市外特別支援学校：2名

エ 行政：2名

オ 親子通園施設：1名

### (5) 実施内容

#### ア 情報収集編

(ア) 子どものよさを伸ばすには

(イ) ICF情報収集・共有システム活用の具体的効果

(ウ) ICF情報収集・共有システムを使った情報収集の方法

#### イ 支援会議編

(ア) 支援会議の事前準備

(イ) ファシリテーションテクニック

(ウ) 支援会議の進め方

### (6) 事業効果を検証する方法

ICF研修にかかわるアンケート

ICF研修の内容理解や、研修を受けたことでの気づきについて評価することを

目的として、研修参加者を対象に質問票を実施した。

図6-1、図6-2にICF研修にかかわるアンケートを示す。

<p>碧南市 ICF 研修 第1回研修会(210624) 事後アンケート</p> <p>(あてはまる□にチェック☑願います)</p> <p>1. ICF 情報把握・共有システムを学んで</p> <p>Q1) こどもを見る視点が具体的にわかった</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q2) こどもの姿を具体的にみることで、子どもの姿をとらえやすくなると思う</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q3) こどもの姿だけでなく、環境もみることの大切さがわかった</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q4) こどもの発達には、周囲の人たちの関りや、環境が影響していることがわかった</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q5) 環境に対して、見る視点が具体的にわかった</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>2. 補足情報の書き方について</p> <p>Q1) 曖昧に補足情報を書くのではなく、具体的な情報を書くことの大切さがわかった。</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q2) ネガティブな(マイナス視点の)書き方ではなく、できるだけポジティブに(プラス視点で)書くことの大切さがわかった。</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q3) 情報を具体的に書く方法、ポジティブに表現する方法がわかった。</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p> <p>Q4) 情報を具体的に書くこと、ポジティブに表現することは、支援の検討に有用だと思う。</p> <p>□そう思う ----- □少し思う ----- □あまり思わない ----- □思わない</p>
--

図6-1 ICF研修にかかわるアンケート(1回目)

碧南市 ICF 研修 第 2 回研修会 (R3. 7. 16) 事後アンケート  
(あてはまる□にチェック☑願います)

1. 補足情報の書き方について (あてはまる□にチェック☑願います)

Q 1) ネガティブな (マイナス視点の) 書き方ではなく、できるだけポジティブに  
(プラス視点で) 書くことの大切さがわかった。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q 2) 情報を具体的に書くこと、ポジティブに表現することは、効率的な支援の検討に有用だと思う。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

2. ファシリテーションテクニックについて

Q 1) 会議進行のテクニックは、効率的・効果的な支援会議の実現に有用だと思う。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

3. 第 1 回支援会議の実施について

Q 1) 文字資料だけだったが、実際の子どもの姿をイメージして具体的な支援を考えられた。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q 2) 子どもの日常生活の中にある支援の手がかりを探す個人作業はとても大変だった。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q 3) 各メンバーが見つけた手がかりを出し合うことは新たな発見につながった。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q 4) 具体的な手がかりから支援を考えるグループ作業は支援者の連携を高めると思う。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q 5) 今回の方法で検討された支援方法は、子どもの実際の生活にフィットすると思う。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

図 6 - 2 ① ICF 研修にかかわるアンケート (1 回目 表)

#### 4. 第2回支援会議の実施方法について

Q1) 第1回支援会議の結果を第2回支援会議で振り返ることは支援に有用だと思う。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q2) 支援がうまくいく条件/いかない条件を考えることは、対象児の理解につながる。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q3) 支援がうまくいく条件/いかない条件を考えるグループ作業は支援スキルの向上につながる。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

Q4) 第2回支援会議の支援方法の修正プログラムは、子どもの実生活の様子を反映できる。

そう思う -----  少し思う -----  あまり思わない -----  思わない

ご感想、ご意見等ございましたらご記入ください

図6-2② ICF研修にかかわるアンケート(2回目 裏)

(7) 結果

ア ICF研修にかかわるアンケート(1回目) まとめ

表6-1 ICF研修アンケート(1回目) まとめ

設問1 ICF情報把握・共有システムを学んで							
選択肢 >>	1:そう思う	2:少し思う	3:あまりそう思わない	4:思わない	中央値	回答数	
	度数						
(1)	こどもを見る視点が具体的にわかった				1	16	
(2)	こどもの姿を具体的にみることで、子どもの姿をとらえやすくなると思う				1	16	
(3)	こどもの姿だけでなく、環境もみることの大切さがわかった				1	16	
(4)	こどもの発達には、周囲の人たちの関りや、環境が影響していることがわかった				1	16	
(5)	環境に対して、見る視点が具体的にわかった				1	16	
設問2 補足情報の書き方について							
選択肢 >>	1:そう思う	2:少し思う	3:あまりそう思わない	4:思わない	中央値	回答数	
	度数						
(1)	曖昧に補足情報を書くのではなく、具体的な情報を書くことの大切さがわかった				1	16	
(2)	ネガティブな(マイナス視点の)書き方ではなく、できるだけポジティブに(プラス視点で)書くことの大切さがわかった				1	16	
(3)	情報を具体的に書く方法、ポジティブに表現する方法がわかった				1	16	
(4)	情報を具体的に書くこと、ポジティブに表現することは、支援の検討に有用だと思う。				1	16	

イ ICF研修にかかわるアンケート(2回目) まとめ

表6-2 ICF研修アンケート(2回目) まとめ

設問1 補足情報の書き方について		1	2	3	4	中央値	回答数
選択肢 >> 1:そう思う 2:少し思う 3:あまりそう思わない 4:思わない		度数				中央値	回答数
(1)	ネガティブな(マイナス視点の)書き方ではなく、できるだけポジティブに(プラス視点で)書くことの大切さがわかった。	15	0	0	0	1	15
(2)	情報を具体的に書くこと、ポジティブに表現することは、効率的な支援の検討に有用だと思う。	15	0	0	0	1	15
設問2 ファシリテーションテクニックについて		1	2	3	4	中央値	回答数
選択肢 >> 1:そう思う 2:少し思う 3:あまりそう思わない 4:思わない		度数				中央値	回答数
(1)	会議進行のテクニックは、効率的・効果的な支援会議の実現に有用だと思う。	14	1	0	0	1	15
設問3 第1回支援会議の実施方法について		1	2	3	4	中央値	回答数
選択肢 >> 1:そう思う 2:少し思う 3:あまりそう思わない 4:思わない		度数				中央値	回答数
(1)	文字資料だけだったが、実際の子どもの姿をイメージして具体的な支援を考えられた。	10	5	0	0	1	15
(2)	子どもの日常生活の中にある支援の手がかりを探す個人作業はとても大変だった。	7	5	3	0	2	15
(3)	各メンバーが見つけた手がかりを出し合うことは新たな発見につながった。	15	0	0	0	1	15
(4)	具体的な手がかりから支援を考えるグループ作業は支援者の連携を高めると思う。	15	0	0	0	2	15
(5)	今回の方法で検討された支援方法は、子どもの実際の生活にフィットすると思う。	12	3	0	0	1	15
設問4 第2回支援会議の実施方法について		1	2	3	4	中央値	回答数
選択肢 >> 1:そう思う 2:少し思う 3:あまりそう思わない 4:思わない		度数				中央値	回答数
(1)	第1回支援会議の結果を第2回支援会議で振り返ることは支援に有用だと思う。	13	2	0	0	1	15
(2)	支援がうまくいく条件/いかない条件を考えることは、対象児の理解につながる。	15	0	0	0	1	15
(3)	支援がうまくいく条件/いかない条件を考えるグループ作業は支援のスキル向上につながる。	14	1	0	0	1	15
(4)	第2回支援会議の支援方法の修正プログラムは、子どもの実生活の様子を反映できる。	14	1	0	0	1	15



・子どもを見る視点の理解、ポジティブに表現する記録の書き方やその必要性、ICFシステムを活用した支援会議の内容への理解など、ほぼ全てにおいて肯定的な回答であった。

・唯一「子どもの日常生活の中にある支援の手がかりを探す個人作業はとても大変」という項目のみ、「そう思う、少し思う」という回答した人が80%であり、個人作業の大変さが伺えた。一方で、「各メンバーが見つけた手がかりを出し合うことで新たな発見につながった」と全員が回答していることから、支援会議の有用性を実感したことが伺える結果となった。

・子どもへの合理的配慮である「うまくいく条件、うまくいかない条件」を考えることが、子ども理解や支援者のスキルアップにつながると全員が感じていた。

#### (8) 考察

今年度、市外の事業所1カ所から2名、市外の特別支援学校2カ所から2名の参加があった。これまで、市内の支援者に限定して研修を実施していたが、当市の子どもが通う市外への事業所や学校向けにICFの考え方および、ICFシステムを活用の理解を促すことができた。新たな事業所については、今年度のコロナ禍の状況でICFシステム活用の断念を余儀なくされましたが、今後につながる形で理解が得られた。

## 7 ICFシステムを活用する事業所への費用支弁

### (1) 実施目的

令和2年4月にICFシステムの普及促進を目的とし、『碧南市ICF情報把握・共有システムを使った発達支援普及事業』を5年間限定で制定した。そして、普及促進を目的にICFシステムを活用する事業所への支援として、費用の支弁を行う。

### (2) 実施内容

児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所が、ICFシステム活用し、情報収集から関係機関との支援会議を実施した場合、1回あたり7,000円の費用支弁をする。全体の流れは下記のとおり。費用支弁を活用した事業所にICFシステム活用の動機や、継続意欲についてインタビューを行う。

### (3) 費用支弁までの流れ

ICFシステム活用の事前申請→利用決定→ICFシステム活用開始→主治医、学校、園へは市役所から情報提供依頼→情報収集～第1回支援会議（サービス担当者会議の位置づけ：支援方法を共有）→完了報告→費用支弁（1回7,000円）

※1回の支援会議だけでは、支援の結果が共有されないので、第2回支援会議まで実施することを基本とする。

### (4) 対象となる事業所の条件

碧南市が実施するICF研修を受講した職員が在籍していること

### (5) ICFシステム活用の対象となる児童

以下のいずれにも該当する児童

ア 児童発達支援又は放課後等デイサービスを利用している児童

イ 不適切行動などがあり、幼稚園、保育園、学校、事業所等と協力体制及び連携が必要な児童

ウ ICFシステム活用について、保護者が同意している児童

### (6) 事業効果を検証する方法

費用支弁を活用した事業所に対し、ICFシステム活用の動機や対象児等の変化、継続意欲等について、意見を伺う。

### (7) 結果

ア 令和3年度 費用支弁活用件数 2件（情報収集から支援会議までを1回とし1件とカウントする。）

（活用対象児実人数2名、うち昨年度からの継続利用児2名）

イ 費用支弁活用事業所数 1カ所

ウ 事業所が費用支弁を活用して実施した対象児、保護者、支援者の変化

ICFシステム活用	・今年度でICFシステムを活用して3年になる。学校や園と連携をし、職員が関係機関との情報共有、連携の必要性を理解し対応した結果、子どもの困り感が減り、1～2年の活用でICFシステムを活用しなくてもよくなったケースが多い。ICFシステムの活用が終わった後も、その視点を持ち、学校の先生方と話し合っている。
子ども・保護者の変化	・母親が子どもの対応がわからず、四六時中ユーチューブを見させていた。ネグレクト傾向もあり要保護児童として関係機関と連携していたが、ICFシステムを活用し連携した結果、欠席しがちな保育園へも毎日通わせられるようになり、保護者の子どもへの見方がポジティブになった。保護者が関係機関の支援員と話せるようになったことがよかったと言われており、事業所としてもやってよかったと感じた。
支援者の変化	・ICFシステム活用で一番大きく変わったのは支援者である。子どもの姿を見て、今までは「できない」「〇〇は嫌いだからやらない」で終わっていたが、“こんな時ならできた”という記録から、「どのように環境を整えたらできるのか」という風に考えるようになった。 ・他にも先生方が子どもの視点にたち、考える対応したことで、子どもたちが落ち着き、他害がなくなった。

エ 今後の意向

今年度は、コロナ禍ということもあり、活用件数は少なかったが、保護者はやってほしいという人がたくさんいる。事業所としても、効果があり、支援者のスキルアップにもなるため、今後もICFシステムを活用していきたい。

しかし、手間はかかるため、たくさんはできないが、現状の支援ではうまくいっていない人を中心に実施していきたい。

## 8 モデル事業の考察

「一貫した支援」には、それを下支えする「地域の共通の視点」が必要である。しかし、これまで当市においては、共通した視点が形成されていなかった。「支援者が対応に困る状況の原因は子ども自身にある」というように I C F 以前の環境要因を考慮しない考え方をする支援者が多く、I C F システムを活用する際に、子どもの困難さを捉える視点の違いに戸惑い、支援に対する考え方を切り変えるまでに時間がかかっていた。

そのようなこともあり、過去3年間、I C F システムを活用しその普及を進めてきたが、活用した人においては実際の支援の中で I C F の考え方を体験することにより好評であっても、それ以外の人には I C F の考え方のよさが見えないため、なかなか広がらずにいた。そこで、今年は I C F の考え方の土壌づくりを目標に実施した。

今回、巡回支援事前研修と巡回支援において、「子どもを環境とセットでとらえる視点」の形成づくりを行い、「環境を整える方が、より早く子どもの支援につながる」という考えが地域に浸透してくるなど、I C F の考え方を効果的に普及することができた。

また、その視点をを用いて支援を行うことで、子どもの姿の変化に留まらず、支援者自身にも気持ちの変化が見られており、この I C F の視点を地域に根付かせることが、子どもの発達支援においても有効であることが示唆されたといえる。

この「地域の共通の視点」があることで、今後新たに支援者が I C F システムを活用する際にも、子ども自身の課題と環境の課題とにわけて考えることに抵抗なく行えると思われる。

よって、日常生活におけるちょっとした配慮だけでは困難さの軽減が難しい子どもには、巡回支援の方法を活用して日常場面の自然観察で把握できる子どもと環境の相互関係に基づく支援を行い、それでも対応方法に苦慮する場合は、子どもの困難性とその困難性に影響する環境要因の相互作用をさらに詳細に捉えて、子どもが困難に陥っている全体像を明らかにする I C F システムを利用するという段階的な地域支援システムの構築が必要であると考えられる。

しかし、一度限りの巡回支援だけでは、支援者がまだ聞きなれていない「環境とセットでとらえる」ということを、その後の現場実践に定着させることは難しい状

況があることが認められた。そのため、引き続き、巡回支援や研修の継続、職場内での共有等を通じて、「共通の視点の形成」をしていく必要がある。

そして、支援者だけでなく保護者に対しても I C F の考え方を伝える機会を作り、「地域の共通の視点」として子どもを環境とセットでとらえることを普及していくことで、地域の支援体制がよりしっかりとしたものになると考える。

## 9 課題と今後の展望

今年度は、園、児童クラブに向けての巡回支援で、I C F の考え方の普及を実施してきた。今後は、さらに学校にもその考え方を普及し、「一貫した支援」の実施のために「地域の共通の視点」を広げていくことが必要である。

## 付録 1

### I C F 情報把握・共有システム（コアセット版）の概要

#### (1) コアセット導入版 I C F 情報把握シート

I C F（国際生活機能分類）のコアセットとは、オリジナルの I C F を構成する項目数が膨大であり、実践的な活用に対する障壁となっている状況に対する解決策として、WHO が提案しているものである。コアセットが意味するところは、ある特定の疾患の状態評価に関連する項目を、定められた科学的手続きに則って、選択・検証し、最終的にまとめたもののことである。

今回の事業で活用した I C F 情報把握・共有システム（コアセット版）は自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder；以下、ASD と表記）の I C F コアセット (Mahdi et al., 2018) および注意欠如多動症（Attention deficit hyperactivity disorder；以下、ADHD と表記）のコアセット (Bolte et al., 2018) を昨年度までの本事業で活用してきた I C F 情報把握・共有シート（以下、I C F シートと表記）に導入したものである。

ASD および ADHD のコアセットは、I C F 構成要素である、心身機能・身体構造、活動と参加、環境因子の項目選定と再構成が行われており、包括的コアセット、共通版簡易コアセット、年齢帯別簡易コアセットが提示されている。年齢帯別簡易コアセットの年齢帯構成は、5歳未満、6-16歳、17歳以上の3つの年齢帯である。今回、I C F シートに導入したコアセットは、年齢帯別簡易コアセットであるが、ASD コアセットと ADHD コアセットを構成する項目に重複があるため、両方のコアセットの項目群に論理和をかけた結果により、活動と参加および環境因子の I C F シートに導入するコアセット項目群をそれぞれ構成した。加えて、ASD および ADHD の状態評価に重要と考えられた項目については、簡易コアセットに含まれない項目、包括的コアセットに含まれない項目からも今回のコアセット項目構成に含むこととした。オリジナルの I C F 簡易コアセットに含まれない項目を付加する作業は、本事業の委員長である安達潤（北海道大学大学院教育学研究院教授）に加え、発達障害支援に長年の経験を持つ児童精神科医である内山登紀夫（大正大学教授・横浜発達クリニック院長）による採否の協議に基づいて行われた。なお、心身機能・身体構造のコアセット項目は、情報把握対象となる児者の日常生活の観察からは正確な評価が困難であるため、今回のコアセットからは除外している。

上記の手順により構成された I C F シートコアセット導入版の項目数を以下に示す。

活動と参加シートは、0-5 歳版が 52 項目、6-16 歳版が 63 項目、17 歳以上版が 64 項目となり、環境因子シートは、0-5 歳版が 39 項目、6-16 歳版が 41 項目、17 歳以上版が 43 項目となった。但し、環境因子シートの項目で日常的な評価の対象ではないサービス（第 5 章）の項目数は、0-5 歳版で 7 項目、6-16 歳版で 8 項目、17 歳以上版で 9 項目である。

以上より、フル項目版の I C F シートの項目数と比較した場合、活動と参加のフル項目版 127 項目が、0-5 歳版で 5 分の 2、6-16 歳版と 17 歳以上版では 2 分の 1 となり、環境因子のフル項目版 84 と比較すると、3 つの年齢帯とも約 2 分の 1 となっている。

## (2) I C F 情報把握・共有パッケージ

### ア 情報把握・共有パッケージのシート構成

活動と参加および環境因子シートがコアセット版となった以外には、変更を加えておらず、パッケージは、医学的診断、健康関連情報、活動と参加（コアセット導入版）、環境因子（コアセット導入版）、支援対象者情報の 5 つのシートで構成される。

### イ 活動と参加シート及び環境因子シートの情報把握手順と回答カテゴリー

情報把握手順と回答カテゴリーもこれまでの I C F 情報把握・共有パッケージと変更なく、活動と参加シートの各項目は 3 つの質問（①支援のない状態での困難の有無、②困難がある場合の支援の有無、③支援がある場合の効果）に補足情報を加えた構成である。環境因子シートについてもこれまでと変更なく、「周囲の人達」については 4 つの視点（物理的支援、心理的支援、特性理解、障害観）による情報把握、人以外の環境因子については生活への阻害因子であるか促進因子であるかの 2 視点で情報を把握する仕組みを維持している。活動と参加・環境因子以外の 3 つのシートについても変更はない。

### ウ クラウドシステム

今回の事業においては、昨年度のクラウドシステムの使い勝手が低かったため、エクセルベースによる情報把握シートを必要に応じてパスワード管理を徹底することによるメールシステム等で共有することとした。データ整理作業については、エクセル表のデータフィルタ機能を用いるとともに、事業後半ではデータ分析アプリをコアセット版に合わせて再度開発し、ケースによっては専用のエクセル情報把握シートを用いた。

注) 以上、今回の事業で活用した I C F 情報把握・共有システム（コアセット版）の説明であるが、I C F 情報把握・共有シートのコアセット導入版、コアセット導入版を反映した

エクセル情報把握シート、コアセット導入版エクセル情報把握シートの回答分析アプリの開発は、本事業の企画推進委員会委員長である安達潤（北海道大学大学院教育学研究院）が令和元年度から研究を進めている、挑戦的研究（萌芽）「ICFに基づく情報把握共有システムの発達障害支援における実践検証と活用方法の検討」の研究成果であり、本事業はこれらの成果を援用しつつ、事業を進めるとともに、その実践検証結果を提示する位置づけとなっている。



付録

2 企画・推進委員会の実施状況等

(1) 企画・推進委員会開催時期及び検討内容

表 9 - 1 企画・推進委員会第 1 回～第 3 回の開催日時及び検討内容項目

	日時	検討内容
第1回	令和3年6月25日 13時30分～15時	(1) 昨年度のモデル事業の成果と課題について (2) 今年度の事業計画案策定 ICFシステム活用の地域全体へのさらなる普及 ア ICFの視点を取り入れた巡回支援の実施 イ ICF活用を市外にまで広げていく ウ 保護者、支援者向けにICFシステムの周知 エ ICFシステムを活用する事業所への費用支弁の継続
第2回	令和3年11月26日 13時30分～15時	実施状況報告と今後の進め方 (1) ICFの視点を取り入れた巡回支援の実施について (2) 保護者、支援者向けICFシステムの周知(チラシ作成) (3) 保護者向け研修会について
第3回	令和3年2月18日 13時30分～15時	(1) 今年度の事業評価 ア ICFの視点を取り入れた巡回支援での検討結果について イ 巡回支援についてのアンケート結果について ウ ICFの視点を取り入れた保護者向け研修会のアンケート結果について (2) ICFシステムのチラシについて (3) まとめ

## (2) 検討内容の概要

### <第1回企画・推進委員会 検討概要>

今年度の事業計画案策定

(1) ICFの視点を取り入れた巡回支援の実施について

#### <主な意見、質疑>

・研修を受けた園の主任が事前資料を書いたところ「この子が見えてきた」と報告を受けた。主任から担任に具体的な指導も入っていた。ICFの考え方が広まっていくと感じた。

・資料作成は主任と担任だけではなく、複数人で作ることで、色々な先生の視点があり、気づくことが多かったとも報告があった。とても勉強になった研修だった。

・情報シートは、家庭、生活、身体、性格等全て網羅して、どこに問題があるか表になったことで、わかりやすくなった。様々な立場の先生が自由に書き込めるのはいいと思った。

・悪循環がどこにあるのか見つけるのは専門の先生の力が必要かと思う。

・全ての事例に当てはまるわけではないが、よくありがちなパターン、悪循環のタイプがあるので、地域で蓄積をしていくと、このパターンが当てはまる等、現場の先生たちが気づいていけるようになるのではないかと期待できるのではないかと思う。

・ICFシステムのコアセット活用に効果がある、現場が慣れてきている、普及は可能なのではないかと兆しが見えている。

・コアセットの数は少なくなったが園で色々なお子さんに使うのは現実的には難しい。どうしても困った子には使うのはいいことだとは思う。その前段階として環境との関係を理解する必要がある。ICFの考え方をもっと広める必要があり、それを巡回支援で行っていく。

・発達障害あるいはその疑いがあるお子さんは通常級に6.5%在籍と言われている。園、学校で通常クラスにいる発達障害の子をどうカバーしていこうかという視点がないと、生きづらさを抱える子たちをカバーしきれない。先生たちのスキルを高めることは必要。

・費用支弁のない園、学校の先生はどこまでその労力を背負っていけるのか、また行政としてICFを定着させ、もれなく子どもたちに環境因子を含めた、合理的配慮を含めた支援が行き届くようにするには広くしていかないといカバーしきれないのではないか

と思う。

(2) ICF活用を市外までに広げていくことについて事務局より説明

- ・お子さんが通う先は市外も多い。広まっていくといい。広がることで見える物も変わってくるのでいいのではないかと思う。
- ・できるだけ市外の事業所にも積極的に参加していただけるよう、事務局としても研修等広くPRしていけるように進めていく。

(3) 保護者、支援者向けに ICF システムの周知について事務局より説明

- ・費用支弁については労力を考えると色々思う所はあるが、視点を変えると、園、事業所、家庭で ICF の考え方が入っていくことはいいこと。事業所職員の研修目的であり、費用支弁についてはどちらでもいいと思う。
- ・昨年度は ICF システムを 7 件活用した。対象になった保護者は支援者と密接になり、他の保護者が羨ましがっている。最終的に子どもの良い視点で捉えられるようになり、保護者にいい影響がある。それを見てやってほしいという保護者もいる。しかし園や学校が関わることであり、事業所だけでは決められない。
- ・ICF の対象になったお子さんは羨ましいと思う。保護者のやることはあるが、口コミで広がっていくのは最もだと思う。やりたい人が全員やれるかと言ってもそれは無理だと思う。でも ICF の考え方はいいことなので、皆さんに知ってもらうことはいいこと。
- ・提案として、園巡回で使っている様式を使って保護者向け研修はできないか。以前 ICF の研修を受けた時、他の保護者もいたが難しいで終わってしまった。普段の子育ての中で環境を見て考えるようなお子さんの視点に立って学べる研修をして、それが ICF の考え方だよと伝えていくと、保護者自身が ICF の土俵に上げられる。
- ・大事なことは地域の中で環境とセットで子どもの困りを見る視点がどれくらい広がるか。その視点で見れば普段のサポートの中でいけるお子さんもいる。それが難しかったら巡回支援のシートを使って丁寧に情報をとる。そこでどこが課題かを考える。想定外の要因も含めて考える場合は ICF を使用する。段階的な地域支援システムにしていく。読み障害で使用していて、RTI と言われているもの。全員に対して緩やかな評価をし、課題があった子には細やかな評価をして支援をし、更に残った子には更に濃密な支援をする。段階的にやっていく。ICF も同じように段階づけると良い。全員が ICF をするのは難しい。絞り込んでいくような地域支援システムを考えていく。その中に、保護者も同じ視点を持つことは大事なことになる。

### (3) ICF システム活用する事業所への費用支弁の継続について

・対象となる児童は広まっていくといいので限定しなくてもいいと思うが、どこが中心になるのかは課題。費用支弁は 7000 円は情報収集、理解までの職員への周知、会議、完了報告までを考えると、足りない。しかしこの考え方を職員も保護者も理解するには活用しないと定着しない。個人的には勉強することで費用支弁はなくてもいいという思いもある。

・日中一時で不登校のお子さんがある。その子たちにも利用できるといい。保育所等訪問で、デイに通うまでではないお子さんにも利用できるといい。

・人件費等考えると 7000 円は割に合わないのではないか。お金につられて入ってくる人がいることがいいとは思えない。二面性があるので落としどころが難しい。

・「保護者が同意している児童」について保護者を交えた教育、保育、福祉、家庭各場面での支援が上手くいくようにするものであり、保護者も含めて行いたい、保護者が課題を抱えていてレスポンスが悪かったり、コミュニケーションがとりづらい方もいる。基本同意が必要だが、対象児によってはケースバイケースで考えていけるといいと思う。

### 6 全体を通しての意見、質疑

・年々システムが変わって発展している。今年の巡回支援はどこかで参加したいと思う。

・ICF は初めて聞いた。通常級で支援が必要な子がたくさんいる。その子たちにも支援が届くように広がっていくようにしたい。

・今年度から未満児を対象に日々の記録をとり、コアセットにおとしこみ、支援会議を行うようにやっている。難しいのは、項目タイトルを何にするかで迷っている。課題、目指す姿に重点をおいて項目タイトルを選び直したりしている。今年度は支援者の記録として使っている。

・情報共有 ICF の情報も大事だが、学校の先生は学校の先生の見方、保護者は保護者の見方、園は園の見方ではなく、碧南では色々な人たちが同じ視点で取り入れていく、ということが情報共有であり、それぞれが違う見方をしていたら、連携が図れるわけがない。1 番困るのは子ども。子どものためにと考えた時にみんなが同じように見る。その時に ICF は環境因子も含めて見ていくので上手く使っていく。どうやったら、事業所だけでなく、園、学校も含め、こどもの発達年齢段階に応じて時系列的に子どもが発達していく中で、行く先が変わってもどこへ行っても最低限同じ視点で自分を見てくれてい

る。と貫けることが大事。一般社会にどうおとしていくか課題。どこも同じレベルを求めめるのではなく、園、学校は最低限の見方をできるようなベースを持つ。発達支援を行う所はそこに上乘せしていく。

- ・公立は費用支弁がなく、労力よりもやってよかったが得られることで普及するか決まってくる。広がると、「こういう苦手さを持つ子はこうすると過ごしやすくなる。」「周りの環境を変えるだけで、変わるよ。」など、データベースで蓄積して誰でも見られるようにしていくとそこから得られるものもたくさんあると思う。

- ・他の施策との接点が増えてきた。日中一時や不登校、支援の難しい保護者など広がりを持った施策の中での ICF の位置づけ、周辺の施策との連携、ICF の考え方の共有が課題になってくるのではないかと思う。

- ・合理的配慮の提供は一貫（教育、福祉、教育、母子保健）して求められている。これらと、ICF はつながりがある。環境の観点から困難性を感じないように、お膳立てをしていき、みんな同じスタートに立つことが合理的配慮の考えかた。合理的配慮をどう碧南で提供していくか。碧南に住んでいる人と、行政がどう手を取り合うかになってくる。

- ・巡回支援事前シートは北海道でやっている物を園用に変えたもの。北海道では小学校で、個別支援計画になっており、児発、園でも使っている。なぜ広まったかという、福祉と教育の合同協議会があり教育の方に個別支援計画を作る予算があるから、一緒にやろうとなった。ICF を動かすという考えよりも合理的配慮、環境の考え方をどう地域で実現していくかを大きいフレームで考える。見えてきた課題を部分的に切り取って、考え方が広まれば、段階をおった支援ができる。

## < 第 2 回企画・推進委員会 検討概要 >

(1) ICF の視点を取り入れた巡回支援の実施について

- ・巡回支援にオブザーバー参加した。先生方がしっかりと検討できていた。子どもの成長の度合いなどを客観的に見れてよかった。

- ・先生みんなで情報を整理して共通理解することで、何が課題で、本人がどこで困っているかがわかったのがよかった。

- ・事前情報の記録を書くのは労力がかかるが、園でも児童クラブのように関わる先生みんなで記入するような方法も取れるとよいと感じた。

- ・事前に、園長主任級を対象にした研修をしてもらったことで、園長・主任級の職員

がどもの姿をどのように把握していくのかがわかって取り組めたのがよかった。今後、多くの職員がこの考え方を学んでいけるとよいと思う。

- ・実際に、来年度の園内で現職教育にこの方式を取り入れ見ようといっている園もある。

- ・この事前記録様式は、日常の状態から絞り込んでいくため、現場の先生がプロセスを見えやすいことがメリットである。

- ・別紙の1にある、過ごしやすい時にピックアップされているのは「合理的配慮」であり、過ごしにくい時にあげられているのは「除去すべき社会的障壁」である。

- ・ICFを使っていく時に考えていく事は、この子にとっての合理的配慮は何かという点。

- ・就学前に、このように把握された合理的配慮が学校につないでいく事が必要である。

- ・今回の情報シートのような内容が、個別の指導計画になっていくと引き継がれやすく、支援者もやりやすくなる。

## (2) 保護者、支援者向け ICF システムの周知(チラシ作成)について

- ・中心に実施する事業所以外にも、協力しないといけない事業所もでていたので、そのあたりも配慮をして作成してほしい。

- ・内容が抽象的なので、知らない保護者の人が内容を理解できるかを確認してみるとよい。具体的に何をするかを強調して記入するとよい。それでもわからない時の、問い合わせ先などを明確にしておくといよい。

- ・ICFの正式名称を記載しておくといよい。

## (3) 保護者向け研修会について

- ・研修会を終えた保護者から今後の子育てにおいて前向きな意見がたくさん聞かれた。

- ・親子の会代表が福祉課、講師の先生と事前打ち合わせをしながら進めてきた。

- ・ふせんに記入し整理していく方法がとてもよかった。情報の増えた感じがわかりやすかった。

- ・グループワークで他の保護者の意見を聞き、それを取り入れることもできたのもよかった。

- ・グループワークの人数も2～3人がちょうどよかった。

- ・ファシリテーターが保護者をほめてくれる場面が多くあり、それがよかった。

・支援者向けの I C F 研修では保護者は難しすぎたが、今回の内容は楽しく取り組めたという意見が多くあった。

・ I C F システムを全てのお子さんを対象にするのは難しいと思うが、今回のように保護者に I C F の考えを伝える機会をつくることで保護者にとっても子どもにとってもよい機会とある。

・今回の研修では旭川の“すくらむ”がベースになっていると伺った。碧南市のサポートブックも“すくらむ”に近いものにするなど、できるところから始めていきたい。

・ I C F の視点を地域に広めるのに大切な視点であるが、今回の保護者研修のアンケートで、「支援者、学校の先生にもこの考えを知ってほしい」というものがあった。支援者、学校の先生になかなか広がっていないと、保護者が思っていると事だと思う。

・「一貫した支援」とよく言われるが、一貫した支援を下支えする「地域の共通の視点」が必要で、それをまず作ることが大切である。その上では I C F の「環境とセットで捉えていく視点」はとても大切、保護者だけでなく、支援者、学校の先生方にも広まってほしい。

・巡回支援の取り組みはとてもよいので、次に学校にどうやってつないでいくかということが大切になる。

・巡回支援の次の段階は、支援者がいつ来てくれるのかと巡回を待っているのではなく、困った時に「自分たちでこれをやってみよう」と主体的になれるとよい。

・巡回支援も保護者向け研修でもそうだが、一般的に研修をやった直後はいいが、その後 1～2 か月後その人達の実生活で活かしているか。どのくらい、その後落ちているかを確認することも必要ではないか。研修だけだと認識がどこまで落ちるのか、そこから先はどんな支援が必要かを考えることもできる。

・事業評価のために、その後の子どもの困り感がどれくらい解決されたのか、子どもの視点にたって確認しておくこともよいのではないか。

#### (4) その他

今年度 I C F システムを活用した事業所からの報告

・今年度で I C F システムを活用して 3 年になる。学校や園と連携をし、職員が関係機関との情報共有、連携の必要性を理解し対応した結果、子どもの困り感が減り、1～2 年の活用で I C F システムを活用しなくてもよくなったケースが多い。I C F

システムの活用が終わった後も、その視点を持ち、学校の先生方と話し合っている。

・母親が子どもの対応がわからず、ネグレクト傾向もあり要保護児童として関係機関と連携していたが、ICFシステムを活用し連携した結果、欠席しがちな保育園へも毎日通わせられるようになったり、保護者の子どもへの見方がポジティブになった。保護者が関係機関の支援員と話せるようになったことがよかったと話されており、やってよかったと感じた。

・他にも先生方が子どもの視点にたち、考える対応したことで、子どもたちが落ち着き他害がなくなった。

・ICFシステム活用で一番大きく変わったのは支援者である。子どもの姿を見て、今までは「できない」「〇〇は嫌いだからやらない」で終わっていたが、“こんな時ならできた”という記録から、「どのように環境を整えたらできるのか」という風に考えるようになった。

### <第3回企画・推進委員会 検討概要>

#### (1) 今年度の事業評価

##### (ア) ICFの視点を取り入れた巡回支援での検討結果について

・うまくいく(うまくいかない)関りは、発達障害支援として記載されている(専門家がアドバイスする)内容となっている。しかし、コンサルテーションの限界と言われていたように、専門家の知識で伝えても、その場では「そうですね」というが、現場の先生がそれをどうやって活かしていいかわからないことが多かった。しかし、これを現場の先生が自分たちで専門家が言うようなことにたどり着いたことが重要。

・現場の先生が丁寧に子どもの様子を見ていけば、ここにたどり着くのだと思った。たどり着いた中身は、日常生活の中で絞り込まれた内容で日常生活に活用していけることである。この下地のもとに、さらに専門家のスキルの伝達があれば、現場の工夫に結び付きやすいと思う。

・そういう意味で内容を見て、これが、現場の先生方だけでたどり着いたことが非常に大きなことである。

・取り組み内容を聞き、車輪の再発明は必要なのだと思う。専門家がアドバイスを伝えるだけでは、現場に定着するものではないと感じた。科学的にはわかっ



ていても、小学生の実験のように自分たちで実施し実感することで、本当に身に付きわかっていく。支援者にもそういうことが、必要。そういったプロセスがこの事業には見えていて、とてもよい取り組みである。

(イ) 巡回支援についてのアンケート結果について

- ・園で対応に困っていた先生が、環境とセットで子どもを捉え、担任だけでなく園全体で共有し、取り組むことで子どもの姿が変わってきたという報告も受けている。1回だけでなく、2回、3回できるといいという声も聞いている。
- ・事業所を活用していない子どもへの支援において、園の先生の手がかりとなり「光が差ししました」と言われていた。園の支援においていい機会になった。
- ・アンケート結果から事前情報シートの他の子へ応用できるという回答がかなりあり、波及効果を感じられるので、施策的にもよい取り組みであると思う。
- ・園と児童クラブの回答の傾向がちがうという説明があったが、これは子どもの成長発達からすると当然な姿だと思う。成長発達の中で自分の姿を内面化し、それとどう向きあうかが課題となる。就学前、小さいころに適切な支援を受けていないと、内面化されている自己がネガティブなものになる。そうすると気持ちを受けとめるという支援からスタートしないといけなくなる。強くはないものの二次障害的な問題が起こっている。そういった意味でも就学前から活用し、学校につなげていけるとよい。合理的配慮ということをかためながら、特別支援教育につながっていくとよいのではないか。
- ・「子どもの日々の生活エピソードをつなげて、子どもの全体像を理解することは、経験豊富なものでないとなかなか難しいことだが、ケースフォーミレーションなどで皆と話し合う時間が必要となる。

(ウ) ICFの視点を取り入れた保護者向け研修会のアンケート結果について

- ・お子さんの年齢が幼児から高校生と幅広かった。
- ・今後も継続して研修会を実施してもらえるとよい
- ・研修実施に際し、ペアプロなどとの違いや、どれを受講したらよいかわかるように示してもらえるとよい。

(エ) ICFシステムのチラシについて

- ・3つ折りで渡すときに、どこから読むかわかりにくいので、読む順番や活用の手順を記入しておくとうい。ページがあるとわかりやすい。

(オ) 学識経験者からの好評

・この事業を継続してもらっていることが大事。そして、ただ続けているだけでなく、少しずつ広がっているということがとても良い、教育療育への拡大は大変重要なので今後も継続してほしい。

・ICFのツールはICFの考え方を形にしていくもの。考え方を地域に広げていくことが重要。考え方を知っているけれど、形にできない人もいるのでそのためにツールがある。ツールを抜きにするのではなく、地域を作っていく上でのツールの位置づけをみんなが共有することが大切。そのことがツールに振り回されない支援体制を作っていくことになる。ICFシステムの活用から始まったが、ツールを通じて、地域の人々の発達に対する考え方が変わってきていると感じている。

(3) 企画・推進委員会及び事務局名簿

表 9 - 2 企画・推進委員会委員名簿及び事務局名簿

企画・推進委員会及び事務局名簿			
(令和3年度碧南市ICF情報把握・共有システムを使った発達支援普及推進委員会)			
No.	役職	職業(役職)	委員氏名
1	会長	北海道大学大学院教育学研究院 教授	安達 潤
2	副会長	愛知県医療療育総合センター中央病院児童精神科医長	吉川 徹
3	委員	日本福祉大学子ども発達学部子ども発達学科 教授	渡邊 顕一郎
4	〃	親子の会 カラフル代表	鈴木 由記
5	〃	社会福祉協議会ふれあい相談支援事業所 相談支援専門員	古川 裕隆
6	〃	合同会社 祐愛 代表社員 りはくる(児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業)	小幡 一美
7	〃	合同会社 Win 代表 ぶちま〜る(児童発達支援)	藤原 直子
8	〃	特定非営利活動法人 ARTIST JAPAN 理事長 ゆり学園(児童発達支援、放課後等デイサービス)	森脇 友理
9	〃	碧南市学校教育課 教育相談室 臨床心理相談員	二宮 直樹
10	〃	碧南市学校教育課 指導主事	家出 順子
11	〃	碧南市保健センター 母子保健係長	羽佐田 美和子
12	〃	碧南市こども課 指導主事	伊藤 寛美
13	〃	碧南市こども課 指導保育士	久野 貴美代
14	〃	碧南市にじの学園長	鈴木 智美

<事務局>

福祉こども部長	杉浦 秀司
福祉課長	杉浦 浩二
福祉課 発達支援係長 (発達障害児者地域生活支援モデル事業マネージャー)	鈴木 信恵
福祉課 発達支援係 主査	山口 京子

任期: 令和2年4月1日から令和4年3月31日まで(辞令交付日: 令和2年4月1日)
--

### 3 成果の公表実績・計画

今後、碧南市のホームページにて実施内容や成果等の掲載する。